

平成23年度の献血の受入に関する計画（案）の認可について

- ・ 諮問書 1
- ・ 平成23年度の献血の受入に関する計画（案） 2

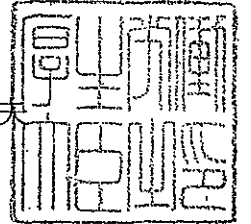
【参考資料】

- ・ 平成22年度献血受入計画（平成22年度4～12月）
における取組み状況と平成23年度献血受入計画の
策定について 12

厚生労働省発薬食0307第46号
平成23年3月7日

薬事・食品衛生審議会会長
望月正隆 殿

厚生労働大臣 細川 律夫



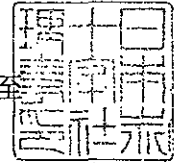
諮 問 書

平成23年度の献血の受入れに関する計画を認可することについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第11条第3項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

血企第79号
平成23年3月2日

厚生労働大臣 細川律夫様

日本赤十字社
理事 西本 至



平成23年度献血受入計画について

標記については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(昭和31年法律第160号)第11条第1項の規定に基づき提出いたします。

平成23年度献血受入計画について

平成23年度献血受入計画については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第11条及び同法律施行規則第4条に則り、各都道府県と協議し、当該年度に献血により受け入れる血液の目標量、その目標量を確保するために必要な措置に関する事項及びその他献血の受入れに関する重要事項について、以下のとおり計画します。

1. 平成23年度に献血により受け入れる血液の目標量

平成23年度に献血により受け入れる血液の目標量については、各都道府県における過去3年の輸血用血液製剤の需要動向と原料血漿の必要量から安定供給を確保するために、全血献血で145万リットル、血漿成分献血で27万リットル、血小板成分献血で35万リットルの合計207万リットルを確保することとします。

なお、都道府県別目標量については、別紙1のとおりです。

日本赤十字社では、これらの目標量を確保するために、国、地方公共団体等との連携の下に献血受入れに取り組みます。

2. 前項の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

(1) 献血受入の基本方針

① 目標量の確保

平成23年度に献血により受け入れる血液の目標量を確保するための各都道府県献血受入施設の稼働数及び目標量については、別紙2のとおりとし、医療機関の需要に応じた採血に努め、400mL及び成分献血を積極的に受入れます。

② 献血受入体制の整備

献血者の安全性と利便性に配慮し、立地条件等を考慮した採血所の設置、移動採血車による計画的採血等、効率的な採血を行うための設備及び体制の整備・充実を継続的に実施します。また、採血所における休憩スペースの十分な確保や地域の特性に合わせたイメージ作り等環境整備に努め、一層のイメージアップを図ります。

③ 献血者の処遇等の充実

献血者が安心して献血できるように、献血の受入れに当たっては、献血者を丁

寧に処遇し、不快の念を与えることのないよう、職員の教育訓練の充実強化により献血者の処遇向上を図るとともに、献血者の意見・要望を把握し、献血受入体制の改善に努めます。

また、献血者の個人情報保護や献血者健康被害救済制度についても適正な運用に努めます。

④初回献血者への対応

初めて献血をする方の献血に対する不安等を払拭するために、献血の手順や献血後の過ごし方等の映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行います。また、学校献血会場において、採血後の献血者をケアする者を配置し、採血副作用の防止に努めます。

⑤検査サービス等の実施

献血者の健康管理に資するため、引き続き希望者に対し生化学検査成績、血球計数検査成績をお知らせします。

また、ヘモグロビン濃度の低値により献血にご協力いただけなかった献血申込者に対して健康相談等を実施し、献血者の増加を図ります。

(2) 献血者の確保対策

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者を普及啓発の対象として効果的な活動や重点的な献血者募集を実施するとともに健康な高年齢層の献血受入れについても積極的に推進します。

また、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等により、血液製剤がこれを必要とする患者さんへの医療に欠くことのできない有限なものであることを含めた献血思想の普及啓発を図ります。

特に少子高齢化による若年層献血者の減少を踏まえ、若年層を対象とした取組みとして体験学習の継続的な実施等、献血への動機付けとしての活動も積極的に推進します。

なお、各都道府県血液センターにおける主な取り組みは、別紙3のとおりです。

① 若年層を対象とした対策

(ア) 若年層全体に対する対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報に努めます。

(イ) 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての献血セミナーや血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図ります。

(ウ) 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたことから、これまで実施してきた若年層献血はもとより、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等についての献血セミナーを学校へ出向いて積極的に実施するよう努めます。

(エ) 大学生を対象とした対策

- ・献血推進活動を行っている献血ボランティア組織等の協力を得て、連携を図り、大学生における献血や血液製剤に関する理解、献血体験の促進に努めます。
- ・学生献血ボランティアとの更なる連携を図るとともに、その組織基盤強化を図ります。
- ・さらに、将来の医療の担い手となる学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組みを行ってまいります。

(オ) 10代への啓発として、採血基準の改正により、男性に限り400mL全血採血が17歳から可能となることについて普及啓発に努めます。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

(ア) 20歳代後半～30歳代の女性を対象とした対策

この年代の女性については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血者が減少しているものと考えられることから、その取組みとして、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制を整え、親子が献血にふれあう機会を設けるよう努めます。

(イ) 40歳～50歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的な存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」、「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血の推進を図ります。

(ウ) 60歳以上を対象とした対策

この年代は、60歳を超えたところでの献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減ってしまうことや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなど献血者の増加を促進するよう努めます。

70歳以上の献血が出来なくなった方についても、個人ボランティアとして協力頂き、献血の推進に支援いただけるよう努めます。

また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで可能となることについて普及啓発に努めます。

③ 企業等における献血の推進対策

社会貢献活動の一環として、献血に協賛する企業や団体を募り、地域の実情に即した方法で献血の推進を図ります。

④ 複数回献血協力者の確保

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行うよう努めます。

また、複数回献血クラブ会員の中でも、特にメールを利用した会員の増加に取り組むとともに、献血に協力いただけるよう努めます。

⑤ 献血推進キャンペーン等の実施

将来の献血基盤となる10代・20代の若年層献血の推進は、血液事業にとって喫緊の課題であり、広く国民への献血の普及啓発を図るため、戦略的なキャンペーン等の広報を展開します。

【平成23年度に予定されている主なキャンペーン】

- (ア) 複数回献血者確保キャンペーン (4～5月)
- (イ) 愛の血液助け合い運動 (7月)
- (ウ) いのちと献血俳句コンテスト (7月～12月)
- (エ) 全国学生クリスマス献血キャンペーン (12月)
- (オ) はたちの献血キャンペーン (1～2月)
- (カ) LOVE in Action プロジェクト (通年)

3. その他献血の受入れに関する重要事項

(1) 血液製剤の安全性向上のための対策

国及び都道府県と連携し健康な献血者の確保に努めます。

今後も献血者本人確認を徹底するとともに、検査目的献血の防止のための「安全で責任のある献血」の普及に努めます。さらに、問診業務の充実強化に努め、安全な献血の受入れを図ります。

(2) まれな血液型の血液確保

まれな血液型の献血者には、医療機関からの突発的な要請に対応できるよう、本人の意向を踏まえて予め登録を依頼し、必要時に献血を依頼します。

(3) 血液製剤の在庫管理と不足時の対応

赤血球製剤等の在庫予測に基づき、献血者確保対策を講じて安定供給に努めます。また、国及び都道府県にも在庫情報を提供し、万一の在庫不足時には対応手順に基づき、関係機関と連携した献血者確保方策を実施します。

(4) 災害時等における危機管理

災害時における広域的な需給調整等の手順に基づき、国、都道府県及び市町村と連携して需要に見合った献血確保及び円滑な血液供給に努めます。

(5) 献血受入計画の分析と評価

献血の受入状況について、国、都道府県及び市町村へ情報を提供します。また、その分析と評価を行い、次年度の献血受入計画の各種施策の検討に資することとします。

平成23年度に献血により受け入れる血液の目標量(日本赤十字社)

(単位:L)

No	都道府県名	全 血 献 血			成 分 献 血			合 計
		200mL	400mL	計	血 小 板	血 漿	計	
1	北海道	7,180	81,280	88,460	16,688	3,015	19,703	108,163
2	青森	1,200	14,160	15,360	4,400	2,500	6,900	22,260
3	岩手	1,200	13,560	14,760	3,800	2,187	5,987	20,747
4	宮城	1,932	22,000	23,932	6,528	5,861	12,389	36,321
5	秋田	1,180	12,080	13,260	3,360	1,666	5,026	18,286
6	山形	1,350	11,120	12,470	2,100	2,641	4,741	17,211
7	福島	2,690	24,180	26,870	5,880	1,719	7,599	34,469
8	茨城	2,888	25,612	28,500	5,504	7,022	12,526	41,026
9	栃木	3,374	18,360	21,734	4,972	5,144	10,116	31,850
10	群馬	2,298	20,521	22,819	5,452	3,364	8,816	31,635
11	埼玉	7,295	59,990	67,285	15,536	17,772	33,308	100,593
12	千葉	5,042	58,236	63,278	13,780	14,677	28,457	91,735
13	東京	12,324	151,248	163,572	49,672	24,402	74,074	237,646
14	神奈川	1,211	78,680	79,891	17,849	28,176	46,025	125,916
15	新潟	2,037	22,215	24,252	6,353	5,839	12,192	36,444
16	富山	658	9,752	10,410	2,768	2,218	4,986	15,396
17	石川	876	11,368	12,244	4,376	1,927	6,303	18,547
18	福井	522	9,440	9,962	2,808	412	3,220	13,182
19	山梨	860	7,920	8,780	0	5,040	5,040	13,820
20	長野	1,716	19,444	21,160	5,124	5,095	10,219	31,379
21	岐阜	2,180	18,720	20,900	4,720	5,180	9,900	30,800
22	静岡	1,901	35,412	37,313	8,884	8,471	17,355	54,668
23	愛知	4,680	69,000	73,680	20,160	21,190	41,350	115,030
24	三重	28	14,960	14,988	3,840	6,330	10,170	25,158
25	滋賀	517	12,262	12,779	4,062	3,698	7,760	20,539
26	京都	248	31,832	32,080	7,540	6,073	13,613	45,693
27	大阪	4,511	113,030	117,541	28,011	12,319	40,330	157,871
28	兵庫	1,597	59,467	61,064	12,984	10,907	23,891	84,955
29	奈良	640	15,080	15,720	3,640	2,835	6,475	22,195
30	和歌山	688	14,198	14,886	3,172	1,152	4,324	19,210
31	鳥取	330	7,120	7,450	1,860	1,164	3,024	10,474
32	島根	34	6,560	6,594	1,956	1,927	3,883	10,477
33	岡山	1,326	23,668	24,994	7,703	3,048	10,751	35,745
34	広島	660	31,720	32,380	14,364	4,133	18,497	50,877
35	山口	380	18,892	19,272	3,648	1,486	5,134	24,406
36	徳島	64	9,916	9,980	2,168	888	3,056	13,036
37	香川	101	11,926	12,027	2,326	1,872	4,198	16,225
38	愛媛	53	18,132	18,185	3,912	2,185	6,097	24,282
39	高知	631	9,876	10,507	2,326	1,124	3,450	13,957
40	福岡	196	61,135	61,331	12,448	9,668	22,116	83,447
41	佐賀	48	8,872	8,920	2,064	3,037	5,101	14,021
42	長崎	700	18,560	19,260	4,680	1,620	6,300	25,560
43	熊本	196	24,152	24,348	4,980	2,753	7,733	32,081
44	大分	372	14,524	14,896	2,836	2,048	4,884	19,780
45	宮崎	200	13,680	13,880	3,080	2,688	5,768	19,648
46	鹿児島	333	20,996	21,329	3,816	2,314	6,130	27,459
47	沖縄	200	16,764	16,964	3,022	3,757	6,779	23,743
	合計	80,646	1,371,621	1,452,267	351,152	264,544	615,696	2,067,963

※山梨県の血小板成分献血目標量については、血小板製剤製造が東京都において行われているため、東京都に併せて計上している。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための各採血所毎の目標量及び稼働数

	血液センター				献血ルーム(出張所)				移動採血車				オープン献血				目標量合計 (単位:L)	総稼働数				
	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数							
		血漿	血小板				血漿	血小板				血漿	血小板			血漿			血小板			
北海道	4,274	1,296	8,448	14,018	1,455	19,966	1,719	8,240	29,925	1,423	64,220			64,220	3,008			0		108,163	5,886	
青森	1,420	659	1,464	3,543	363	2,580	1,842	2,936	7,358	729	11,360			11,360	710			0		22,260	1,802	
岩手				0		2,205	1,693	3,519	7,417	364	12,494	494	281	13,269	926	62		62	4	20,747	1,294	
宮城				0		9,552	5,861	6,528	21,941	728	14,034			14,034	984	346		346	12	36,321	1,724	
秋田	645	557	1,200	2,402	306	4,124	790	1,894	6,809	573	8,491	319	266	9,076	621			0		18,286	1,500	
山形				0		1,080	2,641	2,100	5,821	362	11,390			11,390	660			0		17,211	1,022	
福島	2,017	1,039	3,704	6,760	626	1,203	680	2,176	4,059	363	23,650			23,650	1,420			0		34,469	2,409	
茨城				0		4,412	7,022	5,504	16,938	1,089	24,088			24,088	1,544			0		41,026	2,633	
栃木	1,160	1,888	2,120	5,168	364	1,676	2,737	2,604	7,017	364	18,130	47	0	18,177	1,170	768	472	248	1,488	120	31,850	2,018
群馬				0		8,730	3,364	5,452	17,546	1,053	13,918			13,918	828	171		171	9	31,635	1,890	
埼玉				0		32,847	17,772	15,536	66,155	2,829	34,412			34,412	1,856	26		26	1	100,593	4,686	
千葉				0		23,710	14,677	13,780	52,167	2,120	38,935			38,935	2,345	633		633	39	91,735	4,504	
東京				0		91,484	24,402	49,672	165,558	4,610	51,042			51,042	2,937	21,046		21,046	1,211	237,646	8,758	
神奈川				0		41,512	28,176	17,849	87,537	2,808	38,379			38,379	2,248			0		125,916	5,056	
新潟				0		10,382	5,839	6,353	22,574	1,091	13,870			13,870	727			0		36,444	1,818	
富山				0		1,116	2,218	2,768	6,102	363	9,294			9,294	480			0		15,396	843	
石川	1,790	873	2,176	4,839	302	1,640	1,054	2,200	4,894	301	8,814			8,814	399			0		18,547	1,002	
福井	830	412	2,808	4,050	313				0		8,892			8,892	380	240		240	4	13,182	697	
山梨				0		1,240	5,040		6,280	364	7,540			7,540	553			0		13,820	917	
長野	1,828	2,629	2,560	7,017	341	2,156	2,466	2,564	7,186	509	17,176			17,176	860			0		31,379	1,710	
岐阜	2,060	2,362	2,398	6,820	313	2,980	2,818	2,322	8,120	677	15,860			15,860	1,030			0		30,800	2,020	
静岡	327	572	601	1,500	149	5,059	7,900	8,283	21,242	1,094	31,842			31,842	1,884	85		85	5	54,668	3,132	
愛知	1,956	2,549	2,436	6,941	589	25,162	18,641	17,724	61,527	2,374	44,420			44,420	2,450	2,142		2,142	70	115,030	5,483	
三重	454	1,734	1,280	3,468	315	774	4,596	2,560	7,930	557	13,760			13,760	720			0		25,158	1,592	
滋賀	1,519	2,324	3,000	6,843	365	422	611	748	1,781	161	10,838	763	314	11,915	760			0		20,539	1,286	
京都				0		9,784	6,073	7,540	23,397	1,076	22,247			22,247	1,085	49		49	5	45,693	2,166	
大阪	3060	892	2125	6,077	345	39,039	11,427	25,886	76,352	3,150	71,441			71,441	3,928	4,001		4,001	220	157,871	7,643	
兵庫				0		22,683	10,907	12,984	46,574	1,926	38,381			38,381	1,999			0		84,955	3,925	
奈良	940	675	1,240	2,855	207	1,860	2,160	2,400	6,420	361	12,920			12,920	700			0		22,195	1,268	
和歌山				0		1,020	1,152	3,172	5,344	311	13,866			13,866	774			0		19,210	1,085	
鳥取	716	640	1,414	2,770	251	1,434	524	446	2,404	216	5,300			5,300	294			0		10,474	761	
島根	227	1,483	1,520	3,230	297	57	444	436	937	146	6,310			6,310	400			0		10,477	843	
岡山	916	1,334	4,000	6,250	296	1,958	1,714	3,703	7,375	311	21,664			21,664	1,044	456		456	6	35,745	1,657	
広島				0		5,312	4,133	14,364	23,809	677	26,543			26,543	1,295	525		525	25	50,877	1,997	
山口	860	766	2,120	3,746	311	1,520	720	1,528	3,768	311	16,892			16,892	898			0		24,406	1,520	
徳島	792	388	648	1,828	260	2,064	500	1,520	4,084	311	7,124			7,124	480			0		13,036	1,051	
香川				0		2,501	1,872	2,326	6,699	364	9,526			9,526	504			0		16,225	868	
愛媛				0		3,605	2,185	3,912	9,702	363	14,464			14,464	628	116		116	5	24,282	996	
高知				0		1,420	1,124	2,326	4,870	362	9,087			9,087	620			0		13,957	982	
福岡	1,454	1,195	1,719	4,368	295	16,827	8,473	10,729	36,029	1,433	40,858			40,858	1,640	2,192		2,192	88	83,447	3,456	
佐賀	1,928	3,037	2,064	7,029	362				0		6,992			6,992	305			0		14,021	667	
長崎	416	180	936	1,532	244	3,360	1,440	3,744	8,544	624	15,484			15,484	805			0		25,560	1,673	
熊本	3,018	1,487	2,291	6,796	298	4,253	1,266	2,689	8,208	315	17,077			17,077	826			0		32,081	1,439	
大分				0		4,730	2,048	2,836	9,614	361	10,008			10,008	506	158		158	8	19,780	875	
宮崎				0		2,000	2,688	3,080	7,768	363	11,880			11,880	650			0		19,648	1,013	
鹿児島	1,559	972	1,716	4,247	297	3,604	1,342	2,100	7,046	364	16,166			16,166	820			0		27,459	1,481	
沖縄				0		2,420	3,757	3,022	9,199	363	13,879			13,879	687	665		665	33	23,743	1,083	
合計	36,165	31,942	55,988	124,095	9,264	427,463	230,507	294,055	952,026	40,614	954,958	1,623	860	957,442	52,388	33,680	472	248	34,400	1,865	2,067,963	104,131

注1. オープン献血とは、献血のベッド等の器材を持参し、事業所や学校の会議室等を会場として行う献血受入れ方式。

注2. 稼働数とは、血液センター・献血ルームでは開設日数を、移動採血車では配車台数を、オープン献血では献血会場数をいう。

注3. 血液センター稼働数-静岡県・・・(149)は、毎週月曜・水曜・土曜の開所<浜松センター>

注4. 献血ルーム(出張所)稼働数-滋賀県・・・(161)は、毎週火・金・土曜の開所<長浜出張所>、島根県・・・(146)は毎週火・水・土曜日の開所<出雲出張所>

平成23年度献血受入施設数及び献血受入施設整備予定等

別紙2-2

	平成23年4月1日現在の献血受入施設数等について				平成23年度の献血受入施設整備予定について									
	血液センター (※)	献血ルーム	移動採血車	成分採血装置	血液センター		献血ルーム			移動採血車		成分採血装置		
					新設予定数	休廃止予定数	新設予定数	休廃止予定数	移転・拡張予定数	増減数	更新数	増減数	更新数	
北海道	4(4)	6	16	81	0	1	1	1	1	1	0	0	△5	0
青森	2(1)	2	4	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手	1(0)	1	5	23	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
宮城	1(0)	2	6	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秋田	1(1)	2	5	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形	1(0)	1	3	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島	3(3)	1	9	41	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
茨城	1(0)	3	7	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木	1(1)	1	6	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬	1(0)	3	5	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
埼玉	1(0)	8	10	86	0	0	0	1	1	0	0	5	7	7
千葉	1(0)	6	10	77	0	0	0	0	0	1	1	0	5	5
東京	2(0)	13	19	223	0	0	1	0	0	0	1	0	5	5
神奈川	2(0)	8	12	138	0	0	0	1	1	0	0	0	3	3
新潟	1(0)	3	4	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
富山	1(0)	1	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川	1(1)	1	4	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福井	1(1)	0	3	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山梨	1(0)	1	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長野	1(1)	2	4	35	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
岐阜	1(1)	2	4	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
静岡	3(1)	3	9	53	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
愛知	2(2)	7	11	115	0	0	0	1	1	0	1	2	16	16
三重	1(1)	3	4	26	0	0	0	1	1	0	0	4	2	2
滋賀	1(1)	1	5	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都	2(0)	3	6	34	0	0	0	2	2	0	1	0	4	4
大阪	3(2)	10	18	142	0	0	0	0	0	0	3	3	8	8
兵庫	1(0)	6	9	78	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0
奈良	1(1)	1	4	22	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
和歌山	1(0)	1	5	13	0	0	0	0	0	0	0	△2	0	0
鳥取	1(1)	1	2	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島根	1(1)	1	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山	1(1)	1	6	25	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
広島	1(0)	2	6	44	0	0	1	0	0	0	1	10	0	0
山口	1(1)	1	5	21	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
徳島	1(1)	1	3	20	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2
香川	1(0)	1	4	14	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1
愛媛	1(0)	1	4	24	0	0	0	1	1	0	1	0	2	2
高知	1(0)	1	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡	3(1)	4	11	65	0	0	1	0	0	0	0	11	2	2
佐賀	1(1)	0	2	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎	2(1)	2	5	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本	1(1)	1	5	26	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
大分	1(0)	1	4	15	0	0	0	0	0	△1	0	0	0	0
宮崎	1(0)	1	4	14	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2
鹿児島	1(1)	1	5	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
沖縄	1(0)	1	3	18	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合計	64(32)	123	289	1,921	0	1	4	13	13	0	17	31	80	80

※平成23年4月1日現在の献血受入施設(血液センター)について…()数は、実際に受け入れを行っている血液センター数。残りの32施設については、血液センターの立地条件等の理由により、献血ルーム、移動採血車、オープン献血により必要な献血者を確保している。

※更新とは、増減なく新たな採血車、成分採血装置に入れ替えること。

各都道府県血液センターにおける主な取り組み

①若年層を対象とした対策

No.	具体的対策	対象
1	新規に献血協力した方にお礼状を送付し再来を促す。	10代、20代の若年層
2	献血に関する勉強会を行い、その後、街頭献血にて献血呼びかけボランティアを行う。このことにより、献血への理解を深めてもらい、将来の献血へのきっかけづくりを行う。	小学生・中学生、高校生、その他学生
3	中学2年生を対象とした社会人体験学習受入施設に登録し、各課の実務等を体験しながら血液センターへの理解を深めてもらう。	中学2年生

②献血者の年齢層に応じた献血推進対策

No.	具体的対策	対象
1	キッズスクールを開催し、保護者同伴の元、血液センター見学等親子で献血について学んでもらい、将来の献血者確保及び保護者への献血協力を訴える。	小学生と父親、母親
2	過去に成分献血登録していただいた方に献血基準の変更案内と成分献血を依頼する封書を郵送する。	55歳から60歳の方
3	400mL献血経験者で60歳から64歳までに献血歴の無い方に、献血依頼及び69歳まで献血を継続いただけることの周知を図る。	65歳以上の方

③企業等における献血推進対策

No.	具体的対策	対象
1	献血協力のない企業のHPなど閲覧し社会貢献活動をしている団体に対して電話等を使い、献血の必要性について説明し協力依頼をする。献血協力団体に対しグループ企業で献血をしていない企業を紹介してもらう。5年以上献血協力が遠ざかっている企業に再度献血の依頼をする。	献血実施していない事業所や献血協力企業等への啓発活動
2	献血ルーム周辺企業及び大学・専門学校に、協力期間を1週間程度として献血協力を目的とした献血協賛を依頼する。また、献血ルームにて献血協力をいただいた企業等に対しては、ホームページに掲載する等、協力企業のアピールを行う。このことにより各企業の知名度を上げることにより献血協力(社会貢献活動)を実施しやすい環境づくりを行う。	献血ルーム近隣企業・学校等への啓発活動
3	次年度役員の方に献血研修会を実施し、継続的な協力をお願いをする。	献血協力団体・企業

④複数回献血者の確保対策

No.	具体的対策	対象
1	献血会場に複数回献血クラブ会員登録誘導装置(サイトスタンパー)を設置し登録手順を簡素化し登録しやすい環境を整備する。	献血者
2	平成22年度初回献血者に継続的に献血していただくよう、居住地(市町村)ごとに献血要請葉書を送付する。	初回献血者
3	献血後6カ月を経過した献血者に対して送付しているバースディハガキを、献血可能日を過ぎたタイミングで送付する。	献血者
4	65歳～69歳までの献血再来推進のため、60歳～64歳の方に葉書等により400mL献血協力を依頼する。	60歳から64歳の方
5	400mL献血の推進	400mL献血可能者

⑤その他の具体的対策

No.	具体的対策	対象
1	一稼動あたりの協力者が多い休日の街頭献血会場に配車するにあたり、市町村担当者、大型ショッピングセンター担当者に理解を求め、休日しか献血できない会社員等の協力者確保を目指す。	各市町村担当者、献血実施事業所担当者、献血者
2	大学、専門学校等に「血小板成分献血の協力をお願い」ポスターを配布し、固定施設での成分献血の参加を呼び掛ける。	大学生・専門学校生等

参考資料

平成23年3月8日

平成22年度献血受入計画（平成22年度4～12月）における取組み状況と
平成23年度献血受入計画の策定について

日本赤十字社 血液事業本部

- 1 平成22年度4～12月における各都道府県別の血液確保量、
確保目標量に対する達成率及び比較 別紙1のとおり
- 2 血液確保目標量と確保量及び供給量との比較に基づく分析
各血液センターにおける献血受入計画（平成22年度4～12月：平成22年度の受入計画を3/4したもの）の目標量151.7万Lに対する確保量は155.4万Lで、達成率は102.4%となっており、確保量が目標量を上回っています。これは、献血受入計画を基本としながらも、医療機関からの受注状況と血液の在庫状況を勘案して、安定供給を確保するため、各血液センターが状況に応じた採血を行った結果です。また、全体の血液確保量155.4万Lに対し、原料血漿及び輸血用血液製剤の合計使用量は148.3万L（使用量に対する確保率104.8%）です。7.1万L（確保量の4.6%）が未使用量として計上しておりますが、この中には検査不合格と期限切れが含まれています。
以上のことから、平成22年度は、安定供給が確保されています。なお、安定供給を確保する上で、ある程度の未使用量が発生しますが、引き続き、より一層需給管理の精度向上と需給調整による有効活用を図ってまいります。
- 3 血液製剤の安定供給等に係る取組み
輸血用血液製剤の在庫の過不足の早期把握、安定的な供給を図るための必要な措置の検討と実施及び需給計画の検証を行うため、血液事業本部及び血液センターにおいては次の取組みを行っています。

（1）血液事業本部の取組み

血液事業本部においては、献血者確保及び血液製剤の供給等について審議する「血液事業推進委員会」を設置しています。特に輸血用血液製剤の安定供給を確保するため、同委員会の下に「安定供給促進小委員会」（原則毎週金曜日開催）を設置し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、安

定供給を実現・維持するための対応策の検討を行い、各血液センターへの指示・監視・指導を実施しています。

(2) 各血液センターの取組み

各血液センターにおいては、「需給計画委員会」（原則毎週開催）を設置し、採血・製造・供給の予測に基づく在庫シミュレーションによる赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需給計画の検証を行い、基本となる献血受入計画に調整を加え、翌月・翌々月の中期的需給計画を策定しています。

また、基幹センターは、上記の血液センターとしての対応に加え、管内血液センターの需給状況（採血・製造・供給状況等）の把握、需給計画の検証及び指導を行うとともに必要に応じて血液の需給調整を行っています。

(3) 在庫量の情報管理と危機管理対応

① 血液事業本部は、休日を除く毎日、午前6時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を把握（別紙2）し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省へ報告しています。

また、各血液センターからは各都道府県及び各都道府県支部へ同様に情報提供しています。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥った血液センターについては、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等を、基幹センターを通じて血液事業本部へ提出させ、それを受けて血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示しています。

平成22年度については、注意報水準が2回発生していますが、全て一過性のもので、需給調整等の早急な対応により翌日には回避しております（警報水準発生はなし）。

③ さらに、需給予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、今後の採血計画の見直しや増班体制などの具体的な対策を講じるよう指示しています。

④ また、平成17年4月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、万一、安定供給の確保が懸念される場合には、国及び都道府県と連携して迅速に効果的な対応がとれる体制を整備しています。

- ⑤ 更に、赤血球製剤在庫が減少する冬季対策として、各ブロックの赤血球在庫が適正在庫数の120%以上で推移するよう需給管理を図っております。

(4) 冬季・春季献血者確保対策

平成22年10月、平成23年1月に基幹センター需給管理担当課長会議を開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び春季の在庫予測シミュレーション等に基づき、進捗状況確認及び対策の検討を行いました。

また、各基幹センターにおいても管内の血液センターを招集し、そこに血液事業本部からも職員を派遣して冬季・春季献血者確保対策の検討を行いました。

4 平成22年度献血受入計画の進捗状況

平成22年度献血受入計画として、核となる対策と取組みを血液事業本部から各血液センターへ指示し、各血液センターでは都道府県との連携のもとに受入計画を策定・実施しています。なお、その対策と各血液センターにおける主な取組みの実施状況は次のとおりです。

(1) 若年層を対象とした対策

- ・ 小中高生を対象とした血液センター等の見学受入れの推進（体験学習を通じて献血に触れ合う機会を創出し、献血への理解を求める）

<平成21年度実績>

実施回数589回 参加人数34,642人

<平成22年度上半期実績>

実施回数402回 参加人数17,765人

- ・ 10代後半から30代前半の若年層を対象に献血への理解促進を図るために血液センター施設などを利用し、血液事業の紹介等のセミナーを開催

<平成21年度実績>

実施回数380回 参加人数41,091人

<平成22年度上半期実績>

実施回数208回 参加人数13,939人

(2) 企業・団体における献血の推進対策

- ・ 新規協力企業及び団体の開拓
- ・ 献血ルームや移動献血会場への協力企業の開拓
- ・ ロゴマークの活用（ロゴマーク取得促進のための専用ウェブサイトの運営、ステッカー配布など）

<平成21年度実績>

ロゴマーク配布数1,450件 協賛企業・団体数4,794件

(協賛企業・団体数は事業開始の平成18年度からの累計は43,193件、ロゴマークの配付数は6,130件となっている)

<平成22年度上半期実績>

ロゴマーク配布数1,204回 協賛企業・団体数1,292件

(3) 複数回献血者確保対策

- ・ 「複数回献血クラブ」会員の募集を増強
- ・ 「複数回献血クラブ」会員への献血依頼及び理解促進のための情報提供を実施

<平成22年度上半期実績>

複数回献血クラブ会員数251,696人(平成18年度末より156,703人増)

<献血実人数に占める複数回献血者の割合>

(平成21年4月1日～平成22年3月31日実績：31.0%(前年同比1%上昇))

(4) 目標量を確保するための全般的な対策

(献血受入体制への取組み)

献血者が安心して献血できるように、職員の教育訓練の充実強化を図るため、全国研修会を開催

(広報活動への取組み)

- ・ 7月「愛の血液助け合い運動」
- ・ 7～12月「第5回いのちと俳句コンテスト」
- ・ 12月「全国学生クリスマス献血キャンペーン」
- ・ 1～2月「はたちの献血」キャンペーン
- ・ 通年「LOVE in Actionプロジェクト」

を全国で展開しました。この他、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝えるための映像を製作したことから、各血液センターにおいて、講演会や、施設見学時、学校等での上映会を実施し、効果的な広報を実施した。

(血液センターにおける献血者確保への取組み)

- ・ 複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブ会員へ情報誌の発行や、AED講習会等を実施する他、電子メールを活用した献血依頼を実施。また、リーフレットを作成する等して、新規クラブ会員の確保を実施

- ・ 需要に応じた400mL 献血を推進
- ・ 需給予測に基づき、固定施設における受付時間の延長や移動献血バスの増車による献血受入等の措置を実施
- ・ 新規献血協力企業・団体の開拓を行うとともに、既存協力団体の献血実施回数の増加を依頼
- ・ 学生献血推進ボランティアと連携して、若年層献血者確保対策として大学等における献血を実施
- ・ 地域の特性に応じてキッズスペースを整備し、親子が献血に触れ合う機会を設け、献血者確保を実施

5 平成22年度献血受入計画の策定

(1) 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

各血液センターにおける平成 21 年度供給数の実績と平成 22 年度上半期の供給数を中心に、過去 3 年の供給動向（別紙 3）から傾向を分析し、当該年度の供給数を見込み、都道府県との協議のうえ、献血の目標量を算定しました。

(2) 前号の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

・ 献血受入体制の策定

各血液センターにおいては、献血の目標量を確保するため、献血種別にも配慮しながら、過去の献血実績に基づき、施設別（献血ルーム、献血バス、出張採血）の月別、週別、日別の献血受入体制を策定しています。

これらをもって、都道府県と献血受入計画等を協議し、基礎となる年間の献血バスの配車計画等を定めています。

・ 献血者の確保対策

血液事業本部では、献血者の確保に関する基本的対策について、国の基本方針及び献血推進計画に呼応した献血者確保対策を基本とし、各血液センターへ指示しています。

血液センターでは、血液事業本部の指示による献血者確保対策を基本としながらも、それぞれの地域事情を反映した「都道府県献血推進計画」と連携した献血者確保の取組みを計画しています。

一年を通して安定供給を維持するためには、地道な日々の取組みの積み重ねによる献血者の確保によるところが大きいと言えます。また、不足が予測される場合には早めの対応が重要です。各血液センターで実施されている各種取組みは、これまで過去に行ってきた取組みの中でも効果的なものが継続的に実施されています。

平成 22 年度の赤血球製剤の在庫推移は、別紙 4 のとおりです。

平成 23 年度の各血液センターにおける献血者の確保対策については、別紙 5 のとおり血液事業本部が示した基本となる確保対策項目に、各血液センター自らが数値目標を設定し、具体的取組みの進捗状況を評価することとしています。

なお、血液事業本部においては、各地の情報を収集し、全国会議等において各地の取組み事例を紹介する機会を設け、また、各地の取組みを月間情報として配布する等、献血者確保のための情報共有を図っています。

(3) その他献血の受入れに関する重要事項

血液事業本部では、国の基本方針及び献血推進計画に基づき、日本赤十字社として、これら方針及び計画に沿った献血の受入れに関する重要事項について、計画しています。

各都道府県別血液確保量等一覧（平成22年4～12月）

単位:L

No.	都道府県名	血液確保量				血液使用量				献血量-使用量	
		受入計画量 A	献血量 B	B-A	計画達成率 B/A	供給量 自センター+他 センターへの払 出	原料血漿 送付量	計 C	血液 使用率 C/B	未使用量 D=B-C	未使用率 D/B
1	北海道	77,255	82,002.26	4,747	106.1%	43,178	33,649	76,827	93.7%	5,175	6.3%
2	青森県	16,704	16,423.95	△ 280	98.3%	7,334	8,542	15,876	96.7%	548	3.3%
3	秋田県	13,641	14,559.80	919	106.7%	6,423	7,123	13,546	93.0%	1,014	7.0%
4	福島県	25,358	27,787.83	2,430	109.6%	12,328	13,893	26,221	94.4%	1,567	5.6%
5	茨城県	30,166	29,514.06	△ 652	97.8%	13,048	15,044	28,092	95.2%	1,422	4.8%
6	栃木県	22,413	24,025.58	1,613	107.2%	10,532	12,297	22,829	95.0%	1,197	5.0%
7	群馬県	22,952	24,746.40	1,794	107.8%	11,377	11,388	22,765	92.0%	1,981	8.0%
8	神奈川県	101,748	94,973.01	△ 6,775	93.3%	41,931	52,997	94,928	100.0%	45	0.0%
9	新潟県	26,019	28,658.42	2,639	110.1%	12,316	14,118	26,434	92.2%	2,224	7.8%
10	静岡県	41,194	41,364.02	170	100.4%	17,679	22,188	39,867	96.4%	1,497	3.6%
11	京都府	33,716	33,921.20	205	100.6%	17,130	15,056	32,186	94.9%	1,735	5.1%
12	奈良県	15,741	16,373.11	632	104.0%	7,848	7,377	15,225	93.0%	1,148	7.0%
13	山口県	17,549	18,150.57	602	103.4%	8,487	8,474	16,961	93.4%	1,190	6.6%
14	沖縄県	17,102	17,135.56	34	100.2%	8,485	8,203	16,688	97.4%	448	2.6%
製造所単位	1 宮城 (岩手、山形)	54,243	56,339.80	2,097	103.9%	23,920	29,617	53,537	95.0%	2,803	5.0%
	2 埼玉(長野)	97,227	96,432.87	△ 794	99.2%	41,958	52,148	94,106	97.6%	2,327	2.4%
	3 東京 (山梨、千葉)	254,537	257,214.96	2,678	101.1%	132,394	121,798	254,192	98.8%	3,023	1.2%
	4 石川 (富山、福井)	34,499	36,813.53	2,315	106.7%	16,439	18,236	34,675	94.2%	2,139	5.8%
	5 愛知 (岐阜、三重)	123,650	128,993.90	5,344	104.3%	55,703	65,796	121,499	94.2%	7,495	5.8%
	6 兵庫(滋賀)	77,328	77,389.53	62	100.1%	35,456	38,318	73,774	95.3%	3,616	4.7%
	7 大阪(和歌山)	129,203	135,867.35	6,664	105.2%	62,937	62,986	125,923	92.7%	9,944	7.3%
	8 岡山(鳥取)	32,721	33,281.75	561	101.7%	15,953	14,820	30,773	92.5%	2,509	7.5%
	9 広島(島根)	44,386	45,026.88	641	101.4%	20,909	22,166	43,075	95.7%	1,952	4.3%
	10 香川 (徳島、高知、愛媛)	49,725	52,861.46	3,136	106.3%	26,362	24,847	51,209	96.9%	1,652	3.1%
	11 福岡 (佐賀、長崎、熊本、 大分、宮崎、鹿児島)	158,120	163,817.26	5,697	103.6%	72,282	79,322	151,604	92.5%	12,213	7.5%
合計		1,517,197	1,553,675	36,478	102.4%	722,409	760,403	1,482,812	95.4%	70,863	4.6%

※受入計画量は、平成22年度受入計画を3/4したもの。

平成22年4～12月各都道府県別献血者数一覧

単位:人

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						
		血小板献血	血漿献血	400mL献血	200mL献血	合計	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合計
1	北海道	31,603	9,682	146,579	26,881	214,745	13,245	37,757	49,261	51,533	42,674	20,275	214,745
2	青森県	7,567	4,956	25,099	6,455	44,077	3,470	7,984	11,158	11,319	7,692	2,454	44,077
3	岩手県	6,972	5,815	22,239	8,884	43,910	4,845	8,731	10,085	9,782	7,908	2,559	43,910
4	宮城県	11,525	14,338	36,551	8,548	70,962	5,773	18,110	17,859	16,687	9,577	2,956	70,962
5	秋田県	6,973	4,799	20,628	7,301	39,701	4,227	9,288	10,148	8,828	5,752	1,458	39,701
6	山形県	4,392	4,251	19,446	7,173	35,262	3,900	7,087	8,604	8,424	5,775	1,472	35,262
7	福島県	10,103	8,371	43,486	12,032	73,992	4,131	13,186	18,882	19,068	14,500	4,225	73,992
8	茨城県	11,058	10,401	43,277	14,003	78,739	6,171	13,307	19,032	19,898	14,518	5,813	78,739
9	栃木県	9,167	11,566	32,154	12,163	65,050	8,033	12,561	17,071	14,980	9,383	3,022	65,050
10	群馬県	10,682	7,911	37,389	10,461	66,443	6,392	11,518	18,049	17,430	9,773	3,281	66,443
11	埼玉県	27,231	28,722	102,196	31,701	189,850	17,241	36,926	48,018	46,781	27,923	12,961	189,850
12	千葉県	25,459	27,979	100,227	25,327	178,992	13,775	35,833	44,873	45,575	27,288	11,648	178,992
13	東京都	87,029	54,976	272,347	49,004	463,356	31,088	126,975	120,260	108,322	56,094	20,617	463,356
14	神奈川県	32,488	47,885	148,567	4,555	233,495	8,978	45,441	62,128	66,790	35,953	14,205	233,495
15	新潟県	11,642	12,817	40,050	8,155	72,664	5,174	16,164	18,195	17,409	12,288	3,434	72,664
16	富山県	5,331	3,795	18,087	2,758	29,971	1,476	6,113	8,583	7,667	4,563	1,569	29,971
17	石川県	8,761	5,076	21,588	3,843	39,268	1,828	8,272	10,707	10,064	6,089	2,308	39,268
18	福井県	5,162	1,677	18,101	2,327	27,267	1,175	4,765	6,866	7,271	5,334	1,856	27,267
19	山梨県	0	8,010	14,844	3,515	26,369	2,565	4,877	6,280	6,988	4,140	1,519	26,369
20	長野県	8,479	9,915	34,477	7,039	59,910	2,650	10,762	16,227	16,604	10,134	3,533	59,910
21	岐阜県	8,328	10,307	33,668	8,352	60,655	2,879	9,571	14,903	16,221	11,521	5,560	60,655
22	静岡県	17,235	14,642	65,382	7,578	104,837	5,018	19,207	27,619	28,859	18,023	6,111	104,837
23	愛知県	37,175	39,901	133,169	22,032	232,277	12,664	53,123	62,272	58,858	33,201	12,159	232,277
24	三重県	7,849	10,454	28,111	89	46,503	1,057	7,666	13,102	14,370	8,013	2,295	46,503
25	滋賀県	5,454	5,414	21,764	2,219	34,851	1,163	6,366	9,320	9,159	6,220	2,623	34,851
26	京都府	12,768	12,385	57,830	817	83,800	3,982	19,589	19,261	19,808	13,832	7,328	83,800
27	大阪府	45,644	46,638	197,503	15,524	305,309	10,244	56,322	77,395	83,327	50,830	27,191	305,309
28	兵庫県	25,525	22,154	103,141	8,256	159,076	6,612	30,054	40,096	41,344	28,235	12,735	159,076
29	奈良県	6,471	5,883	26,427	2,758	41,539	1,792	8,187	10,137	10,754	7,744	2,925	41,539
30	和歌山県	5,078	3,200	23,121	2,517	33,916	1,598	5,167	8,331	9,350	6,570	2,900	33,916
31	鳥取県	4,112	1,959	12,459	1,023	19,553	520	3,879	5,776	5,181	3,325	872	19,553
32	島根県	4,468	2,394	12,756	257	19,875	600	3,573	5,455	5,447	3,789	1,011	19,875
33	岡山県	11,978	7,952	41,481	5,830	67,241	2,731	13,124	17,125	16,717	12,170	5,374	67,241
34	広島県	21,414	11,511	58,791	3,260	94,976	3,694	18,277	25,504	25,284	15,928	6,289	94,976
35	山口県	6,414	4,688	33,341	1,967	46,410	1,394	7,053	12,176	12,469	9,594	3,724	46,410
36	徳島県	4,353	2,826	17,312	271	24,762	782	4,497	6,754	6,209	4,891	1,629	24,762
37	香川県	4,809	3,736	22,273	448	31,266	1,342	5,723	8,438	7,860	5,698	2,205	31,266
38	愛媛県	7,556	6,547	33,687	67	47,857	1,886	9,308	12,396	12,221	8,745	3,301	47,857
39	高知県	5,558	2,057	17,418	4,575	29,608	1,967	6,026	7,746	6,809	5,123	1,937	29,608
40	福岡県	23,083	19,417	111,428	122	154,050	7,568	32,397	38,358	36,176	26,555	12,996	154,050
41	佐賀県	4,334	5,208	17,054	200	26,796	1,061	5,035	7,109	6,736	5,166	1,689	26,796
42	長崎県	8,479	4,297	34,426	2,210	49,412	2,360	9,434	12,269	12,552	9,696	3,101	49,412
43	熊本県	9,854	6,549	45,755	803	62,961	2,802	12,063	15,714	15,934	12,288	4,160	62,961
44	大分県	4,772	4,691	26,720	1,263	37,446	1,578	6,820	10,436	9,658	6,654	2,300	37,446
45	宮崎県	5,687	5,398	24,418	725	36,228	1,699	6,686	9,348	9,247	6,864	2,384	36,228
46	鹿児島県	8,186	6,853	37,137	1,328	53,504	2,253	10,526	14,173	13,311	10,072	3,169	53,504
47	沖縄県	5,401	7,547	30,073	815	43,836	2,394	10,191	13,304	10,536	6,205	1,206	43,836
	計	633,609	557,550	2,463,977	347,431	4,002,567	229,777	815,521	1,026,803	1,015,817	654,310	260,339	4,002,567

平成21年度各都道府県別血液確保量等一覽

都道府県単位

単位:L

No.	都道府県名	血液確保量				血液使用量				献血量-使用量	
		受入計画量 A	献血量 B	B-A	計画達成率 B/A	供給量 自センター+他 センターへの払 出	原料血漿 送付量	計 C	血液 使用率 C/B	未使用量 D=B-C	未使用率 D/B
1	北海道	99,217	110,321.39	11,104	111.2%	56,319	45,148	101,467	92.0%	8,854	8.0%
2	青森県	22,515	21,283.74	△ 1,231	94.5%	9,470	10,897	20,367	95.7%	917	4.3%
3	秋田県	18,562	18,936.75	375	102.0%	8,836	8,914	17,750	93.7%	1,187	6.3%
4	福島県	32,037	34,732.57	2,696	108.4%	15,975	16,868	32,843	94.6%	1,890	5.4%
5	茨城県	40,492	37,517.14	△ 2,975	92.7%	16,855	19,502	36,357	96.9%	1,160	3.1%
6	栃木県	29,504	31,492.14	1,988	106.7%	13,362	17,240	30,602	97.2%	890	2.8%
7	群馬県	30,536	32,642.59	2,107	106.9%	14,087	17,673	31,760	97.3%	883	2.7%
8	千葉県	88,922	91,397.98	2,476	102.8%	41,758	46,723	88,481	96.8%	2,917	3.2%
9	神奈川県	132,785	129,257.68	△ 3,527	97.3%	54,696	75,398	130,094	100.6%	△ 836	-0.6%
10	新潟県	35,302	37,929.37	2,627	107.4%	15,709	18,660	34,369	90.6%	3,560	9.4%
11	静岡県	55,443	55,158.24	△ 285	99.5%	22,455	29,905	52,360	94.9%	2,798	5.1%
12	京都府	42,661	46,656.37	3,995	109.4%	21,528	22,677	44,205	94.7%	2,451	5.3%
13	奈良県	21,558	21,643.28	85	100.4%	9,973	10,293	20,266	93.6%	1,377	6.4%
14	山口県	23,664	24,051.53	388	101.6%	11,477	11,380	22,857	95.0%	1,195	5.0%
15	愛媛県	23,278	25,583.59	2,306	109.9%	10,809	11,255	22,064	86.2%	3,520	13.8%
16	沖縄県	23,530	23,735.71	206	100.9%	11,413	10,668	22,081	93.0%	1,655	7.0%
製造所単位	1 宮城 (岩手、山形)	71,699	72,828.75	1,130	101.6%	31,740	38,979	70,719	97.1%	2,110	2.9%
	2 埼玉(長野)	126,320	131,901.86	5,582	104.4%	54,193	71,104	125,297	95.0%	6,605	5.0%
	3 東京(山梨)	247,918	253,752.35	5,834	102.4%	119,610	125,912	245,522	96.8%	8,230	3.2%
	4 石川 (富山、福井)	47,571	49,415.92	1,845	103.9%	21,217	26,355	47,572	96.3%	1,844	3.7%
	5 愛知 (岐阜、三重)	162,561	173,609.84	11,049	106.8%	70,903	93,642	164,545	94.8%	9,065	5.2%
	6 兵庫(滋賀)	103,455	100,829.97	△ 2,625	97.5%	45,118	48,983	94,101	93.3%	6,729	6.7%
	7 大阪(和歌山)	170,006	179,279.73	9,274	105.5%	84,739	84,442	169,181	94.4%	10,099	5.6%
	8 岡山(鳥取)	42,221	44,055.44	1,834	104.3%	20,964	20,290	41,254	93.6%	2,801	6.4%
	9 広島(島根)	59,601	62,827.81	3,227	105.4%	27,726	31,602	59,328	94.4%	3,500	5.6%
	10 香川 (徳島、高知)	42,656	44,850.27	2,194	105.1%	22,847	22,699	45,546	101.6%	△ 696	-1.6%
	11 福岡 (佐賀、長崎、熊本、 大分、宮崎、鹿児島)	212,735	221,404.95	8,670	104.1%	94,180	111,567	205,747	92.9%	15,658	7.1%
合計		2,006,749	2,077,097	70,348	103.5%	927,959	1,048,776	1,976,735	95.2%	100,362	4.8%

平成21年度各都道府県別献血者数一覧

単位:人

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						
		血小板献血	血漿献血	400mL献血	200mL献血	合計	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合計
1	北海道	40,748	15,473	194,655	36,276	287,152	16,645	52,227	67,518	67,889	57,275	25,598	272,872
2	青森県	9,432	6,583	32,890	7,868	56,773	3,983	10,828	14,750	14,370	9,813	3,029	56,983
3	岩手県	8,896	8,411	29,636	10,522	57,465	5,491	11,482	13,914	12,867	10,572	3,139	53,746
4	宮城県	14,720	17,837	48,663	10,838	92,058	7,428	24,074	23,539	21,108	12,301	3,608	90,430
5	秋田県	8,834	5,856	27,909	8,722	51,321	4,554	11,389	13,829	11,922	7,713	1,914	48,881
6	山形県	4,948	4,982	24,933	8,643	43,506	4,430	9,010	10,829	10,279	7,223	1,735	38,947
7	福島県	13,169	11,158	53,539	13,988	91,854	4,773	16,698	24,271	23,390	17,748	4,974	89,356
8	茨城県	13,403	14,651	54,507	16,415	98,976	6,998	17,688	25,243	24,684	17,515	6,848	98,925
9	栃木県	12,045	16,331	40,640	15,131	84,147	10,495	16,729	22,678	18,534	11,976	3,735	80,497
10	群馬県	13,518	13,621	46,950	12,237	86,326	6,734	16,325	24,504	22,102	12,582	4,079	83,849
11	埼玉県	34,828	47,375	131,971	46,760	260,934	23,197	51,882	68,039	61,537	38,574	17,705	247,632
12	千葉県	31,315	45,595	127,374	40,478	244,762	17,225	50,181	66,035	59,336	36,389	15,596	230,012
13	東京都	110,406	95,997	345,226	67,674	619,303	40,047	177,878	166,613	135,803	71,703	27,259	575,308
14	神奈川県	41,913	80,952	189,622	4,377	316,864	12,623	65,639	87,473	85,089	47,240	18,800	305,185
15	新潟県	15,177	16,471	54,077	10,728	96,453	6,982	22,054	24,705	22,357	15,914	4,441	95,666
16	富山県	6,752	5,183	23,990	3,832	39,757	2,393	8,029	11,657	9,565	6,096	2,017	41,415
17	石川県	10,473	7,961	28,647	5,103	52,184	2,421	11,260	14,597	12,774	8,142	2,990	51,062
18	福井県	5,725	3,395	22,372	2,308	33,800	1,252	6,154	8,591	8,794	6,728	2,281	33,469
19	山梨県	0	11,157	19,368	4,317	34,842	3,480	6,861	8,643	8,763	5,253	1,842	35,007
20	長野県	10,502	15,631	44,686	11,192	82,011	3,613	14,955	23,328	21,989	13,449	4,677	79,229
21	岐阜県	11,615	16,419	39,350	8,757	76,141	3,367	12,702	19,140	20,005	14,320	6,607	73,653
22	静岡県	22,470	22,695	85,716	8,704	139,585	6,024	26,310	38,422	37,437	23,548	7,844	140,477
23	愛知県	46,240	69,555	169,504	27,881	313,180	17,695	75,957	86,601	74,699	42,952	15,276	289,750
24	三重県	9,369	11,554	36,530	92	57,545	1,471	9,781	16,884	17,035	9,571	2,803	58,730
25	滋賀県	7,666	7,238	27,770	3,198	45,872	1,606	8,614	12,435	11,484	8,216	3,517	45,026
26	京都府	17,799	19,079	76,494	1,189	114,561	5,025	28,071	27,276	26,002	18,779	9,408	107,410
27	大阪府	61,842	62,025	259,817	18,991	402,675	13,247	76,796	107,490	104,804	65,985	34,353	388,176
28	兵庫県	30,812	30,637	133,961	12,950	208,360	8,441	40,627	54,953	52,270	36,291	15,778	199,153
29	奈良県	8,346	8,306	34,503	3,561	54,716	2,608	11,107	13,654	13,749	10,003	3,595	51,582
30	和歌山県	6,107	4,406	30,201	3,172	43,886	1,710	6,879	11,278	11,870	8,461	3,688	42,209
31	鳥取県	5,239	1,613	16,421	1,991	25,264	768	5,407	7,222	6,593	4,286	988	24,138
32	島根県	6,189	2,876	17,525	346	26,936	763	5,022	7,621	7,278	4,928	1,324	24,871
33	岡山県	14,427	11,482	54,246	6,429	86,584	3,376	17,538	22,549	21,099	15,366	6,656	83,337
34	広島県	29,925	19,322	77,562	4,008	130,817	5,201	27,009	36,352	32,966	21,187	8,102	123,070
35	山口県	8,202	6,436	42,997	3,426	61,061	1,904	10,037	16,349	15,750	12,390	4,631	61,093
36	徳島県	5,888	3,984	22,471	293	32,636	834	6,347	8,896	8,067	6,523	1,969	30,827
37	香川県	5,941	4,898	29,344	636	40,819	1,704	7,911	11,291	10,090	7,261	2,562	41,254
38	愛媛県	11,011	8,597	42,596	399	62,603	2,155	12,960	16,854	15,542	11,086	4,006	58,880
39	高知県	6,720	4,454	22,389	5,575	39,138	2,255	8,126	10,402	9,015	6,835	2,505	35,371
40	福岡県	27,416	28,878	140,844	263	197,401	9,171	43,396	50,466	44,934	33,386	16,048	192,339
41	佐賀県	5,142	6,969	22,773	179	35,063	1,396	6,782	9,395	8,753	6,597	2,140	36,059
42	長崎県	10,644	7,675	43,539	3,653	65,511	3,669	13,047	16,412	16,249	12,343	3,791	60,645
43	熊本県	12,689	10,177	60,846	1,061	84,773	3,534	17,420	21,470	20,691	16,445	5,213	80,613
44	大分県	6,427	7,338	33,228	1,574	48,567	2,134	8,908	13,756	12,263	8,550	2,956	46,017
45	宮崎県	6,380	7,553	31,652	814	46,399	1,605	8,657	12,508	11,898	8,856	2,875	45,015
46	鹿児島県	9,119	11,273	50,079	2,967	73,438	3,591	15,582	18,742	17,666	13,637	4,220	70,380
47	沖縄県	6,670	11,665	39,741	1,336	59,412	3,678	14,595	18,477	13,521	7,739	1,402	58,692
	計	807,099	851,724	3,183,754	460,854	5,303,431	293,696	1,126,931	1,407,651	1,294,882	849,747	330,524	5,303,431

血液製剤の在庫状況(血液センター別)

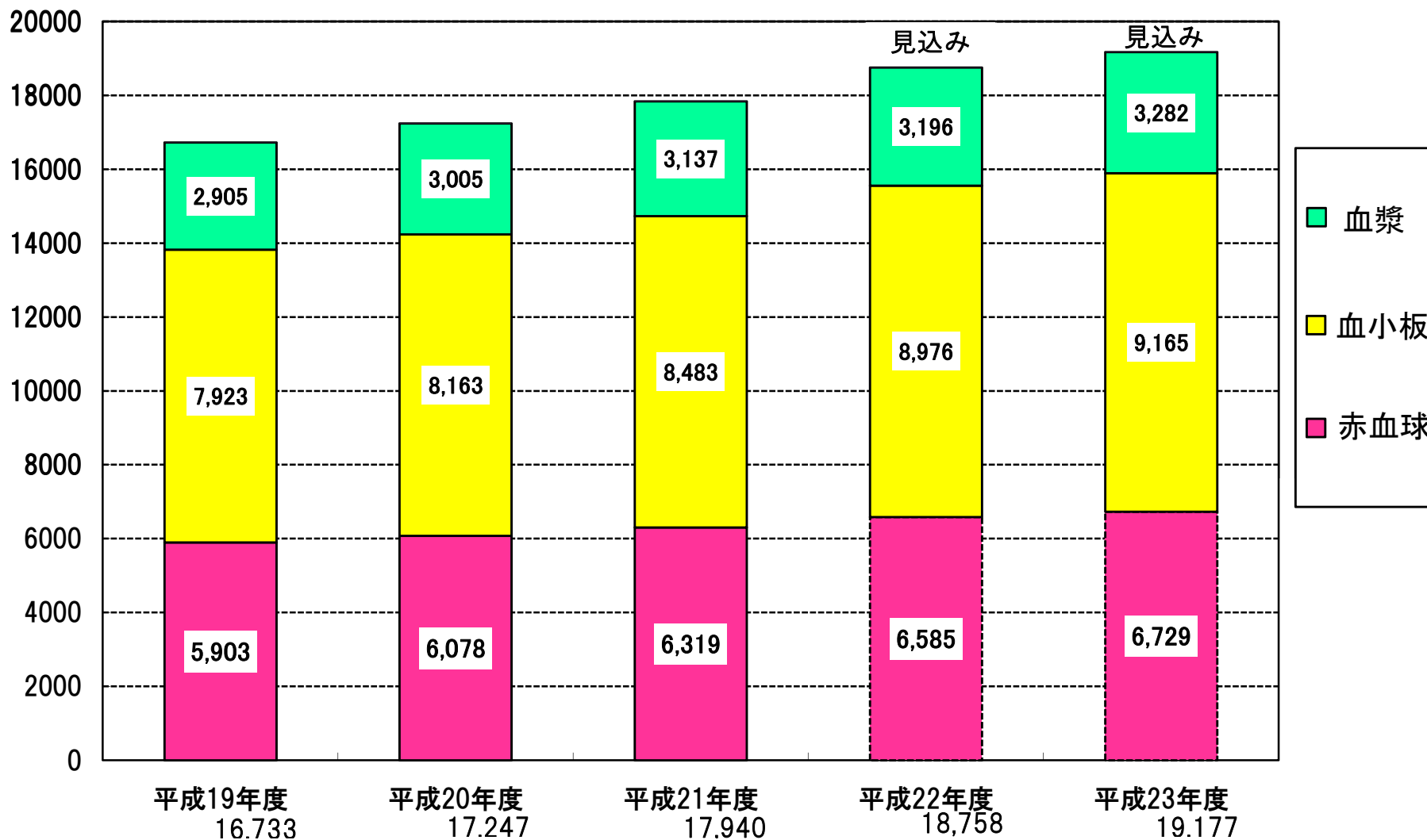
2011/3/4 6:00 AM

単位:(換算本数)

Table with 12 columns: センター名, 血液型, 赤血球製剤(照射血倉) (適正在庫数, 実在庫数, 差, 保有率), センター名, 血液型, 赤血球製剤(照射血倉) (適正在庫数, 実在庫数, 差, 保有率), センター名, 血液型, 赤血球製剤(照射血倉) (適正在庫数, 実在庫数, 差, 保有率). Rows are organized by prefecture (e.g., 北海道, 青森, 岩手, etc.) and include a '全国' (National) summary section at the bottom.

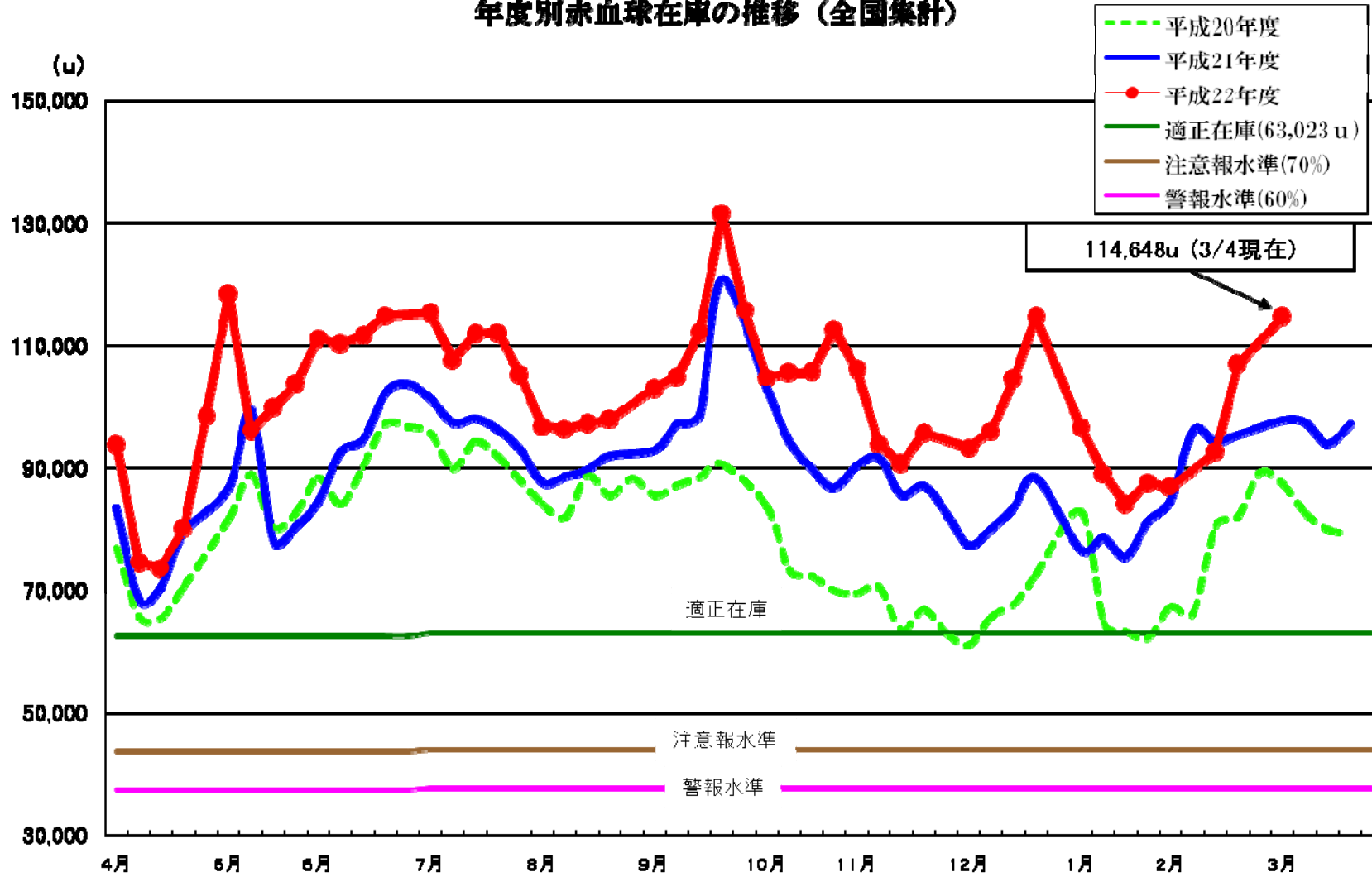
(千単位)

供給動向と供給見込み



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
参加者 70名以上	学生献血推進協議会会議	継続	道内各センター管内の学生ボランティア代表	3月、8月、1月	3回	血液センター	クリスマス献血キャンペーン及びサマー献血キャンペーンの報告会や反省会と併せて、血液事業の現状や血液製剤の知識などを養ってもらおう。内容はパワーポイントと映像素材を使用する。
協力者数 2,000名以上	ティーンズドナー献血キャンペーン	継続	小学生から20代の若年層	11月から12月	1回	全道各献血施設	北海道との共同事業で、若年層に高聴取率を誇るラジオ番組とタイアップをして、番組内からのパーソナリティがリスナーへ献血に対する呼びかけなどを行う。また、各高校へポスター掲示を依頼する。
協力者 700名以上	サマー献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	7月	全道計5回	アリオ札幌・MORUE中島・イオン旭川西SC・イオン釧路昭和SC・長崎屋MEGAドン・ホテ函館店	冬のクリスマス献血キャンペーンと同様に、札幌、室蘭、旭川、釧路、函館のスーパーなどの会場で、学生ボランティアがイベントなどの催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
協力者 700名以上	クリスマス献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	12月	全道計5回	アリオ札幌・MORUE中島・イオン旭川西SC・イオン釧路昭和SC・長崎屋MEGAドン・ホテ函館店	全国統一のクリスマス献血キャンペーン実施の際、道内各学生ボランティア団体がオリジナルのイベントや接遇などを行う。
参加者数 70名以上	血小板成分献血推進研修会	継続	血小板成分献血協力団体	2月、6月、11月	3回	血液センター・献血ルーム	日頃から血小板成分献血に団体でご協力いただいている大学生を対象に、更なる献血の理解を深めてもらうため、1時間程度の献血推進講演を行う。内容はパワーポイントと映像素材を使用する。
参加者 200名以上	献血推進講演会	継続	高校生、看護学生	4月、6月、10月	3回	山の手高校、武修館高校、北海道医療センター西看護学校	学校長を始め教員の理解のもと、1時間程度の献血推進講演を行う。内容はパワーポイントと映像素材を使用する。
訪問者 200名	札幌合同大学祭	継続	札幌市民	10月	1回	大通公園	札幌市内近郊の大学10校以上が合同で実施する大学祭に献血推進ボランティアの展示ブースを出展し、パンフレットやチラシ、ゲームなどをして市民にアピールする。
作品数 30点	献血推進ポスター展	継続	デザイン系の専門学校生等	6月～9月	1回	血液センター	絵画技術を有する札幌近郊の学校へ献血広報用ポスターの作成に参加してもらおう。
協力者 240名	グループ献血	継続	大学生	4月～5月、10月～11月	80回	移動採血車	大学での移動採血車による協力時、グループ(3人以上)で協力があった場合、別途処遇を用意する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
参加者 300名以上	施設見学の受入	継続	小・中・高・短大・大学生	通年	30回	血液センター	血液センターを見学してもらい、血液事業の現状を説明することで、献血の必要性を理解してもらおう。広報用冊子とオリジナルクリアホルダを配付。
参加者 1,500名以上	サタデー・テーリング	継続	小学生(高学年)	4月～9月まで	26回	血液センター	札幌市主催のスタンプラリーに対象施設として参加する。血液センターを見学してもらい、献血の必要性を理解してもらおう。
60歳以上の献血者を5%増加させる	60歳代献血推進	新規	60歳以上	7月～11月まで	5回	各献血施設	60歳～64歳の献血者で60歳以降に献血をしていない方を対象として、献血要請はがきの送付やチラシの配付・回覧等を実施する。
協力者 100名	55以上の男性に血小板成分献血の推進	新規	55以上の男性成分献血者	4月、5月	1回	血液センター	平成23年度から55歳以上(男性)の献血者も血小板成分献血の協力が可能になることについて、チラシやハガキにより周知するとともに、血小板成分献血を依頼する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
10社	新規献血事業所の開拓・確保	継続	新規献血事業所やその献血会場周辺企業	通年	15回	各事業所等	企業間のネットワークやライオンズクラブなどを通して、新規献血事業所を紹介してもらおう。また、会社の建設などの情報収集に努める。
10社	待機型事業所の確保	継続	規模縮小・移動採血車の駐車場所がない企業	通年	15回	各事業所等	緊急時に献血の協力を得られるよう、定期的に広報冊子を配付するなどをして献血の推進を行う。
117社	献血サポーター募集	継続	献血への理解があり、複数回の献血実施の実績がある企業	通年	60回	各事業所等	献血協力企業に対して、より献血への意識を高めてもらうために、移動採血車での実施の際に「献血サポーター」をPRする。
24社以上	研修会実施	継続	事業所・団体等	通年	100回	各事業所等	各種集會等の機会を利用し、献血推進の講演を行う。内容はパワーポイントと映像素材を使用する。
参加40団体	ライオンズクラブ研修会	継続	ライオンズクラブ会員	7月～11月	1回	ホテル講演会場	パワーポイントと映像素材を使用して、献血推進の講演を行う。
12団体	成分献血協力団体・企業の啓発	継続	事業所・団体等	通年	12回	各事業所等	ライオンズクラブやロータリークラブなどの献血推進団体を通じ、団体での協力依頼や登録者名簿の作成依頼を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
協力者数 3,000名以上	血小板成分献血者への再来の要請	継続	前回採血から期間が開いている献血者	通年	6回	ハガキ・封書・電話要請	前回採血から期間が開いている献血者に対して、複数回の協力を要請する。
年度新規会員 4,000名以上	複数回献血クラブの運営	継続	複数回献血者(メール会員)	通年	随時	チラシや非接触型携帯サイト接続ユニットを有効活用し、積極的に新規会員を募集する。	チラシや非接触型携帯サイト接続ユニットを有効活用し、積極的に新規会員を募集する。
協力者 5,000名以上	献血の案内を発送	継続	前回または前々回に協力があった献血者	通年	随時	要請ハガキの発送	前回または前々回に協力があった献血者に対して、献血実施日・場所等を記載したハガキを1週間程前に発送する。
参加動員 250名	献血フォーラム	継続	日赤表彰受賞団体、複数回献血者、献血メールクラブ会員、各ボランティア団体	11月	1回	ホテルまたは札幌市管轄の会場を使用して、日赤表彰や外部講師の講演などを行う。	日赤表彰受賞団体、複数回献血者、献血メールクラブ会員、各ボランティア団体を対象として、ホテルまたは札幌市管轄の会場を使用して、日赤表彰や外部講師の講演などを行う。
複数回の血小板成分献血協力者(期間内3ヵ月間で3回以上)の割合を25%以上とする。	血小板成分献血推進キャンペーン	継続	血小板成分献血協力者	冬期間3ヵ月間	1回	ポイントカード、チラシ、ポスター、新聞広告	ポイントカードを作成し、期間内に2回もしくは3回以上の協力者に対して、段階的に記念品の種類を変えて進呈する。また、プロスポーツ団体とのタイアップを検討する。
参加協力数 延べ8,000名	「また来て献血」カード配布	継続	全血ルームにて独自の複数回献血者確保を目的に展開	通年	随時	ポイントカード、チラシ、ポスター、新聞広告	全血献血の固定施設において、ポイントカードを作成し1年間で2回目の協力者に対して、記念品を進呈。
1年半の間における新規献血者の再来率を30%とする。	新規献血者に対する再来率の向上	継続	前回または前々回に協力があった献血者	通年	随時	要請ハガキ、電子メール送信	前回または前々回に協力があった献血者に対して、献血実施日・場所等を記載したハガキを1週間程前に発送する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
	健康促進事業	継続	複数回献血者	9月～3月	7回	ハンドマッサージなどの健康促進	血液センター・献血ルームにおいて施術講師を招き、ハンドマッサージなどを行い献血者の健康を促進する。
	クラブ情報誌の作成と配付	継続	複数回献血者	11月	1回	血液事業の現状や献血協力企業のコメントなどを掲載する。製本は、印刷会社に委託する。	血液事業の現状や献血協力企業のコメントなどを掲載する。製本は、印刷会社に委託する。
	広告掲載	継続	読者	通年	15回	学内新聞及び大学祭パンフレット等へ献血推進用の広告を掲載する。	学内新聞及び大学祭パンフレット等へ献血推進用の広告を掲載する。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
100人以上の参加	セミナー開催	継続	県内の大学生	5・6・7・10・11・1月	6回	青森県庁他	平成22年12月末現在で青森県学生献血推進連絡会の参加校は5大学となっている。平成23年度は2大学増やして、7大学による連絡会とする。年6回連絡会を開催し、献血の勉強会やキャンペーン等の企画を立案して、献血者確保につなげる。セミナーには青森美少女図鑑とタイアップして作成した、献血手順や各献血ルームを紹介しているDVDを活用する。
1,500枚以上の配布で 応諾率5% 75人以上を確保する	若年層献血者確保対策	継続	新成人	1月	3回	各市町村成人式会場	平成22年度に配布した献血チラシは、各献血ルームの紹介チラシで、配布した市町に献血ルームが設置されていなかったこともあり、インパクトがなかった。平成23年度は、献血チラシを選択し、「けんけつちゃん」や青森県の献血推進キャラクター「ブラット君」を掲載した献血チラシを配布する。1,500枚以上配布し、応諾率5%以上と3市町併せて75人以上確保する。
1,500人以上の協力	若年層献血者確保対策	継続	各大学・短期大学	4～3月	延べ40回	各大学・短期大学	青森県学生献血推進連絡会の学生ボランティアが中心となり、学校献血や学園祭献血(4回)において呼びかけを行う。学園祭パンフレットに広告(6大学・有料)を掲載して確保にあたる。
10・20代の献血率を28%にする	若年層献血者確保対策	新規	10・20代	9～11月	1回	各献血会場	上記事業と併せ、16～29歳の献血者(平成21年度14,811人・平成22年度12月11,454人)の中から献血依頼対象者10,000人に封書依頼し、引換券を持参した方に記念品を差し上げ、10・20代の献血率を28.0%にする。(平成22年12月末現在26.0%)平成23年度事業計画の献血者数58,400人で、10・20代28%確保すると、16,350人となる。平成21年度より1,540人増やす。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
70人以上の参加	献血親子セミナー	継続	小学校4～6年と保護者	7月下旬	3回	血液センター	スライド等を使用しての勉強会。献血バス等の乗車体験。
50歳以上の献血者を5%増加させる	年齢層献血者確保対策	継続	50～69歳	12～3月	1回	各献血会場	50～69歳の献血者(平成21年度12,842人・平成22年12月10,146人)の中から献血依頼対象者7,500人に封書依頼し、引換券を持参した方に記念品を差し上げる。平成22年度の50歳以上の献血者数から5%アップさせる。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
20社以上の開拓	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施事業所	4～3月	随時	各事業所	平成21年度は年間502実施事業所(市役所・街頭献血含む)で献血実施したが、土・日・祝日は街頭献血が中心で、天候等に左右され、安定的な確保が見込めないで、各市町担当者から未実施事業所(40市町村・50事業所)をピックアップしてもらい、可能であれば土・日・祝日に配車できる新規事業所を開拓する。
延べ360以上の訪問	献血協力者増加対策	継続	献血実施事業所	4～3月	随時	各事業所	献血実施予定の事業所等に各市町村担当者と一緒に訪問し、事業所等の献血人数の推移やキャンペーン等のお知らせ、血液の在庫状況等を説明して、確保につなげる。従業員の人数等を把握して、実施時間帯の参考にする。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
複数回クラブ会員を20%増加させる	複数回献血協力者確保対策	新規	全献血者	4～3月	随時	サイトスタンプの利用 封書による募集	各会場にサイトスタンプを設置(7台購入予定。)して、複数回献血クラブ会員を募集する。 平成22年度末入会者4,600人を目標としている。 平成23年度は入会者5,500人を目標とする
2,600人以上の応諾人数	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4～3月	随時	メールによる献血依頼	随時、複数回献血クラブ会員の献血可能者に依頼メールを送信する。 月1回全複数回献血クラブ会員へ当センターのイベント等の情報を送信する。(上記と併せて年間32,500通送信。応諾率8%以上を目標とする。)
4,200人以上の応諾人数	複数回献血協力者確保対策	継続	献血依頼対象者	4～3月	随時	はがきによる献血依頼	献血バスが巡回する各市町村の献血依頼対象者へ はがきで依頼する。(年間84,000通郵送。応諾率5%以上を目標とする。)

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
周知用DVD300枚の作成	献血ルーム周知対策	継続	青森県民	8月	1回	各ルーム周知用DVDの配布	平成22年度に青森美少女図鑑とタイアップして、献血手順や各献血ルームを紹介した内容のDVDを作成したので、平成23年度も300枚作成して県民に無料配布し、各献血ルームの所在地の周知を図る。上記①に記載した10・20代の献血者28%まで上げるための、一環でもある。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

岩手県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
協力者数2,900人以上	高校生への普及啓発事業	継続	高校生 (主に高校3年生)	通年	70	県内各高等学校内での 献血実施及び献血ルーム	若年層への普及啓発事業の一環として、県内すべての高等学校(84校、生徒数40,097人)に保健所・市町村・センター職員が訪問し、事業説明及び協力依頼を行い、献血バスを70校以上に配車する。また、献血実施後は献血ルームへの勧誘を目的に献血ルームのポスター掲示依頼を行う。高校生の献血セミナー事業(出前講座)を開催し、献血思想の普及啓発を図る。
協力者数4,600人以上	大学・短大・専門学校での献血実施普及啓発事業	継続	大学・短大・専門学校生	通年	45	県内各大学・短大・専門学校内での献血実施及び献血ルーム	大学・短大・専門学校生への普及啓発として献血実施(45回)及び献血ルームへの勧誘を行う。
若年層献血者(10代～20代)34.1%以上	献血セミナー	継続	大学・短大・専門・高校生	①献血トーク&コンサート 3月 ②献血セミナー 5月 ③JRC高校生大会 献血セミナー 7月	3	①ショッピングセンター内イベントホール ②県の複合施設内 ③日赤支部	献血トーク&コンサート等を開催し若年層に広く献血意識の向上を図る。また、献血セミナーを通じ学生ボランティアの育成に努め、JRC高校生大会等においてもセミナーを行い、若年層(10代～20代)を5年前のH18年度34.1%(H21年度29.5%)の実績まで引き上げる。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
参加者350人以上	親子の血液センター見学会	継続	小学生と保護者	地域小学校の夏休み期間	12	血液センター	小学生の夏休み期間(7月下旬～8月上旬)に併せ、親子の血液センター見学会を実施する。1回あたり40名、延べ12回とし、スライドを用いた献血クイズ及び施設内・献血バス等の見学、DVDの視聴等献血の普及啓発を行う。
参加者350人以上	血小板成分献血強化	新規	年令55歳～69歳男性	通年		献血ルーム	採血基準の改正に伴い、血漿成分献血協力者で新たに血小板成分献血が可能になった男性(約1,300名)を対象に依頼ハガキを送付する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
30団体	新規献血協力企業・団体確保	継続	企業・団体	通年		県内企業・団体	献血未実施企業・団体等に、市町村担当者・血液センター職員が訪問し、事業説明及び協力依頼を行う。また献血会場周辺企業等へも積極的に訪問し、ポスター・チラシ等を配布し献血への参加を呼びかける。
10団体	年2回以上の協力依頼	継続	企業・団体	通年		県内企業・団体	年1回実施の献血協力企業・団体へ、市町村担当者・血液センター職員で訪問し、協力企業の事業状況・繁忙期等を聴取し、年2回(特に2回目は血液が不足する時期)の献血協力を依頼する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
応諾者(実協力者数)100人以上	メールによる献血要請	継続	複数回献血クラブ会員	不足時		不足している型の献血可能な会員を抽出	緊急依頼メールを送信
応諾者(実協力者数)6,000人以上	ハガキによる献血要請	継続	同一会場における前回、前々回の献血者	献血の1週間前		献血可能な献血者を抽出	ハガキで献血会場を案内し献血依頼
応諾者(実協力者数)1,500人以上	封書による献血要請	継続	複数回献血クラブ会員を除く登録者	7月、12月	2回	献血可能な登録者を抽出	献血登録者(約3,900名)で献血可能な方を抽出し、封書で夏季・冬期の献血者確保のための依頼文を送付する。最新情報(英国渡航規制緩和・献血基準の改正等)、ルーム案内図及び献血会場一覧等も併せてお知らせをする。
延 9,000人	メールによる情報配信	継続	複数回献血クラブ会員	随時	6回	全員に配信	お知らせ、イベント案内、年賀メールなどを年に6回、延9000名に対して配信し、複数回献血への協力者数増加につなげる。
複数回献血クラブ会員200人増	チラシの配布	継続	献血者	4月～3月		献血ルーム、献血会場配布	勧誘チラシを作成(平成22年度は3,000枚)

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
10代の献血率を6.5%、20代の献血率を8.7%まで増加させる	新規献血者紹介強化	継続	大学、専門学校生	4月から6月	延べ20回	各大学、専門学校	当県では、10代献血者率6.4%、20代献血率8.6%(平成21年度実績)となっている。これは、献血推進に係る新たな中期目標(献血推進2014)を上回っているが、更に上昇させるための対策として、再来献血者に新規献血者を紹介していただき、紹介者および新規献血者に対してポイント制度のボーナスポイントを付加等する。
10代の献血率を6.5%、20代の献血率を8.7%まで増加させる	お礼状送付	継続	10代、20代の新規献血者	4月から3月			新規に献血協力した10代、20代の方にお礼状を送付し再来を促す
10代の献血率を6.5%、20代の献血率を8.7%まで増加させる	学生ポイントUPカード	新規	大学、専門学校生	4月から1月	延べ35回以上	各大学、専門学校	献血実績の高い(受付が50名以上)大学、専門学校への複数回配車が平成22年度は延べ31回のところ平成23年度は35回以上の配車を依頼する
10代の献血率を6.5%、20代の献血率を8.7%まで増加させる	学生ポイントUPカード	新規	大学、専門学校生	4月から3月		各献血ルーム	固定施設での学生献血者数が減少してきているため、通常のポイントカードとは別に学生のみポイントUPカードを発行し学生のみの特典と設けて再来協力を促す
10代の献血率を6.5%、20代の献血率を8.7%まで増加させる	献血セミナー	継続	高校、大学、専門学校生 事業所新規採用者	4月から1月	10回以上	各会場	高校から大学に対しては、文書でセミナー実施の案内を送付し若年者に対する献血セミナーを実施する。
新規献血協力学校を1校以上開拓する		継続	大学、専門学校生	4月から3月	1以上	大学、専門学校	新規に開拓する大学、専門学校や、まだ献血を実施していない学校(合計5校ほど)に対して献血受入れの依頼をする

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
参加者300名以上	献血キッズスクール	継続	県内小学生 およびその保護者	8月	7回	血液センター	県内の小学生対象にキッズスクールを開催し保護者同伴の元、血液センター見学等、親子で献血について学んでもらい将来の献血者確保ならびに保護者の方への献血を訴える。
60歳以上の献血者を3%増加させる		新規	60歳以上の依頼対象者	4月から3月		各献血会場	60歳以上の依頼対象者や、複数回献血クラブ会員に対して献血依頼を年間通じて行い協力者を3%増加(約110名)させる。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
新規献血団体50団体確保	新規団体強化	継続	献血協力団体	4月から3月		宮城県内献血団体	継続的に協力できる新規献血団体の確保を行う
15団体確保	ルーム協力団体確保	継続	献血協力団体	4月から3月		献血ルーム	献血ルームにて定期的に協力いただける団体を確保する

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
複数回献血クラブ会員1,000人増	複数回献血者確保	継続	依頼対象者	4月から3月		封書による複数回会員登録依頼	依頼対象者に対して、複数回献血クラブ会員登録依頼を封書にて行う
複数回献血クラブ会員1,000人増	複数回献血者確保	継続	県内献血協力者	4月から3月		献血会場での複数回献血クラブ会員登録強化	献血会場に複数回献血クラブ会員登録誘導装置(サイトスタンバー)を設置し登録手順を簡素化し登録しやすい環境を作る
複数回献血協力者17,500人確保	複数回献血者確保	継続	複数回献血クラブ会員 依頼対象献血者	4月から3月		メールやハガキ、電話による献血要請	平成21年度17,031人の複数回献血協力者を17,500人にするため、複数回献血クラブ会員にはメールで、その他の依頼対象者については、ハガキや電話での献血依頼を恒常的に行う。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
休日の配車を32%から33%にする(年間約10台増)		継続	県内献血者	4月から3月		稼働計画を見直し休日配車を増やす	一稼働あたりの協力者が多い休日の街頭献血会場に配車するにあたり、市町村担当者、大型ショッピングセンター担当者に理解を求め、休日しか献血できない会社員等の協力者確保を目指す。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

秋田県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
20代の献血者比率を25%にする (21年度22.2%→23年度25%)	献血セミナー	新規	大学生及び社会人	6月～12月	3回	血液センター	献血に関するセミナーを開催し、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。セミナーは年3回とし、秋田県の献血の現状(年齢別献血者数の推移)を訴える)と講話

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
16歳～19歳の献血者比率を9.3%まで上げる。 (21年度8.8%→23年度9.3%)	出前講座	継続	高校生	4月～3月	3	各学校 血液センター	高校へ訪問し献血の必要性についての講話をし献血への理解を頂く。400mL献血(17歳)の安全性と必要性を理解して頂くよう出前講座等を行う。
ふれあい事業を2回実施する。	ふれあい事業	継続	小学生及び中学生	5月7月	2回	血液センター	当事業の為のイベントを開催し献血疑似体験や献血の必要性、八月の二重奏等で啓発活動をする。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
献血サポーター協賛企業24社増加させる (31社→23年度55社)	献血協賛団体増加対策	継続	企業と団体	4月～3月		各事業所等	現在約1,100社ある企業に献血協賛事業について説明しご理解を頂き、ご理解を頂くため出前講座等も実施する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
新規会員500人の増加を目標とする。 (現在587人→23年度1087人)	複数回献血会員の増加	継続	全ての献血者	4月～3月		全献血会場にて会員の募集を毎日行う	複数回献血の新規募集を携帯専用端末を使用し募集を行う。血液事業学会にて携帯専用端末を使用する事により2倍の登録者が増えると発表があった。現在月20名程度の応募者を月40名まで増加させる事が可能と考えられる。
54歳から64歳の血小板献血比率を30%まで引き上げる。約400名の増加 (21年度21.6%→23年度30%)	血小板献血の呼びかけ	新規	54歳から64歳の献血者	4月～3月	4	メールやハガキで呼びかける	50歳から64歳までの血漿献血経験者1430名に対し年に4回血小板献血推進のハガキをだし、確保に努める。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
新規献血者の確保10%増加	新規献血者の確保	継続	20代から50代	4月～3月	4回	情報誌等を発行	新聞広告や地域情報紙等に献血等を掲載し啓発する

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
参加者200名	若年層献血セミナー	継続	高校、大学、専門学校生	4月、7月、8月、12月、1月	5回	血液センター及び学校 献血についてのセミナー及び施設見学を開催し、献血の意義や血液製剤の正しい知識の普及啓発を行う。 資料としては、「愛のかたち献血」及び「献血と輸血用血液」スライド、ビデオ上映等を実施予定。
参加者100名	献血出前講座	新規	小、中、高校生	7月～11月	5回	学校 若年層へ献血の意義や血液製剤についての正しい知識の普及啓発を行う。 それぞれの年代に合わせたスライド資料を作成し普及啓発に努める。 小学生であれば血液の簡単なクイズ等も行う予定。
1稼働当たり赤血球80単位以上	大学献血への増車	継続	大学生	4月～12月	6回	大学構内 大学構内での献血バスの増車を行い献血の普及啓発を行う。 平成22年4月～12月の実績は、1稼働当たり73.7単位であるため、23年度は、実施時期等も検討を加え、80単位以上を目標とした。
1稼働当たり赤血球80単位以上	学生ボランティアと連携した献血実施(サマー献血、クリスマス献血)	継続	高校、大学、専門学校生	7月～8月、12月	5回	街頭、大規模スーパー等 若年層の学生が献血を呼び掛けることにより同年代の献血意識向上を行う。 学生が企画等も行うため楽しく献血に参加できるとともにボランティア学生の友達等も献血していただけるため献血の輪が広がる。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
参加者100名	青少年献血ふれあい事業	継続	小、中、高校生	5月、7月～8月、10月	3回以上	血液センター 夏休み等に親子施設見学会等を行い献血の意義や血液製剤の正しい知識の普及啓発を行う。 「愛のかたち献血」及び「献血と輸血用血液」スライド、ビデオ上映等を実施予定。 さらに施設見学実施後に献血クイズ等も実施予定。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
10社以上	新規献血協力企業等の確保	継続	献血協力団体等	4月～3月		福島県内 県、市町村及び献血協力団体との連携を密にし、新規協力団体の開拓を行う。
5社以上	休眠献血団体等への働きかけ	継続	現在休眠中の献血団体等	4月～3月		福島県内 現在休眠献血団体等へ過去における実績等を検討し今後の献血協力を依頼する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
応諾数1000名以上	メールによる協力要請	継続	複数回献血クラブ会員	4月～3月		メール配信 成分献血のできる方中心にメールでの献血協力要請を行う。 平成22年12月現在で、メール会員数2,824名の登録があるが血小板の型別不足状況に応じての協力依頼を行うこととしている。
応諾数1000名以上	ハガキ・電話による要請	継続	前回400mL献血協力者	4月～3月		ハガキ・電話による要請 型別で不足が生じる恐れがあるときに献血協力要請をハガキ及び電話で行う。 特に土、日等に実施している大規模スーパー献血時に血液型別の不足状況に応じて協力依頼はがきの発送を予定している。
複数回メール会員年間500名以上の増加	会員募集用リーフレット作成	継続	400mL献血、成分献血協力者	4月～3月		リーフレット配布 400mL献血及び成分献血協力者で複数回献血クラブ未加入の方へリーフレットを20,000枚以上配布し加入のお願いをする。 平成22年12月現在の会員数は、2,894名の登録があるが、500名以上の増加を目標としている。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
固定施設で500名以上の協力	成分献血要請のダイレクトメール発送	継続	成分献血可能な方	4月～3月	12	翌月に誕生日を向かえる成分献血者へDMの発送を行う。 成分献血協力の方で翌月誕生日の方へDM発送を行う。 粗品プレゼント予定。
1日50名以上の協力	献血ルームの献血者確保	継続	献血可能な方	7月～8月、12月～1月		献血ルーム限定のイベント等を実施するとともに広報強化を行う。 現在検討している内容としては、期間限定特別記念品プレゼントを計画している。 7月～8月はカップアイス、クリスマスは、マフィン等のプレゼントを予定している。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
若年層献血者(10代～20代)を27%にする (平成21年度:24.9%)	献血セミナー	継続	高校大学生及び一般	9月・10月・11月	5回	学校及び血液センター	映像素材(ありがとうっていっぱい言わせて)・血液に関するパワーポイントを使用し、献血に関するセミナーを実施する。
	若年層キャンペーン	継続	小学生～一般	8月・1月・2月	3回	献血会場及び献血ルーム	学生ボランティア主催で実施し、クイズ及びゲーム等を行い献血の啓発を図る。
	夏休み親子教室	継続	小中学生	8月	2回	血液センター	映像素材(ありがとうっていっぱい言わせて)・血液に関するパワーポイントを使用し、また、クイズや車輛等の乗車体験等を行う。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
20代の献血者を18%にする。 (21年度:16.4%)		新規	20歳	1月～2月		各献血ルーム	県と共催で実施、ルーム近隣市町村の成人式等でチラシを配布し各ルームでの協力依頼をする。 30,000枚作成し、20ヶ所の成人式会場に8,000枚配布、また、大学等でも配布する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規事業所を50ヶ所を開拓する。	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	従業員数100名以上の企業リスト及び市町村市役所等から情報で新規事業所の開拓を行う。
休眠状態の事業所20ヶ所を開拓する。	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	過去の団体台帳を活用し休眠状態の事業所の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
メールによる献血要請を実施する。 目標:応諾率 20%	複数回献血協力者確保対策	継続	登録者	血液不足時		複数回献血クラブを活用し協力依頼を実施する。	血液不足時に配慮し協力を依頼する。 メール会員約4,600人に緊急時に依頼する。
ハガキによる献血要請を実施する。 目標:応諾率 20%	複数回献血協力者確保対策	継続	献血可能者	4月～3月		街頭献血等を中心に協力依頼を実施する。	約1年前までの前回及び前々回献血実施者に協力依頼をする。 4月～12月までに66,874件に発送し、応諾率10.1%
実施場所(企業・団体)の年間回数の増加 目標:10ヶ所	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回・2回の献血実施企業及び新規実施事業所	4月～3月		複数回献血を依頼する。	年1回・2回の献血実施企業及び団体や新規事業所等に複数回献血実施を依頼する。 特に、新規事業所中心に半年後の献血実施を依頼して行く。(12月現在10ヶ所実施)

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
次回献血の予約を推進する。 予約者:目標を2,000名		継続	ルームでの献血実施者	4月～3月			各献血ルームにおいて、献血終了後及び電話で予約を受け付ける。22年度途中より休日にも実施し多くなったため目標を多くした。(12月現在で1,121名)
電話及びハガキによる依頼を実施する。 応諾者1,500名を確保する。		継続	ルームでの献血実施者	4月～3月			各献血ルームにおいて、6ヶ月以上献血を実施していない献血者にハガキ及び電話依頼を実施する。100名ぐらいうを目標にし、毎月実施する。電話依頼:1,295件 協力者:276名 応諾率:21.3% ハガキ依頼:3,787通 協力者:1,071名 応諾率:28.3%

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
100人以上	若年者献血セミナー事業	継続	10代後半～30代前半の若年層	4月～3月	7回以上	栃木県赤十字血液センター会議室 栃木県学生献血推進連盟「かけはし」など学生ボランティア(8校)に対し4月～3月で7回以上の施設見学、栃木県の血液事業の現状説明、「八月の二重奏」上映など映像資料を用い研修会を実施。
8,000人以上	大学・短大・専門学校等献血	継続	18～22歳の学生	4月～3月	50回以上	県内対象校数18校 学生課などを通して学校の承諾を得て構内に採血車を乗り入れ希望者を対象に実施している。平成22年度県内対象校数18校のうち16校で献血実施した。4月～12月の実績は4,297人。1月～3月までの見込みは500人。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
320人以上	青少年等献血ふれあい事業	継続	小、中、高校生(保護者含む)の若年者	4月～3月	10回以上	栃木県赤十字血液センター会議室 親子参加型のAED講習と施設見学、献血クイズなどを併せて実施
8,000人以上	高等学校献血	継続	16～18歳の高校生	4月～3月	80回以上	各高等学校 高等学校の生徒を対象に希望者を募り献血を実施。養護教諭を通して学校に協力を得ている。平日授業時間を割いて献血を実施している。ほぼ学校行事の一つとして認識してもらっている。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
20社	新規協力団体確保対策	継続	献血未実施企業・団体	4月～3月	20回以上	各企業・事業所等 新規献血協力企業・団体の開拓。「愛のかたち」パンフレット等を用い献血協力要請する。
20社	休眠団体への働きかけ	継続	事業規模縮小等により献血実施できなかった企業・団体	4月～3月	20回以上	各企業・事業所等 休眠団体へ再度献血実施の要請をする。「愛のかたち」パンフレット等を用い献血協力要請する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
応諾者数(実協力者数)500人	献血要請対策	継続	複数回献血クラブ会員。会員数2,039名。	4月～3月	10回	要請メール配信 血液不足時に会員に対し献血協力要請する。月1回程度、年間12回程度配信する。
応諾者数(実協力者数)500人、もしくは2回以上の複数回献血率対前年比3%増。	要請はがきによる献血依頼対策	継続	一定期間未献血者	4月～3月	10回	要請はがき郵送 血液不足時や街頭献血等に献血協力要請する。平成23年度は10,000枚送付予定。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
上記④複数回献血者確保対策に含む	はがき・メールによる献血依頼	継続	400ml献血可能者	4月～3月	10回	メール配信・はがき郵送 各献血会場での400ml献血実施要請。
全血400ml献血比率76.0%	400ml献血推進キャンペーン	継続	400ml献血可能者	4月～3月	10回	400ml献血推進ちらし・ポスター等500枚作成し配布。 300企業(団体)、90高校へ献血依頼時にちらし等を配布し推進を図る。400ml献血受付のみの街頭献血を企画実施。
高等学校献血時の400ml献血率今年度比3%増	高等学校献血における400ml献血推進	継続	400ml献血可能者	4月～3月	2回	校長会や養護教諭研修会等で周知。 学校及び担当教諭へ学校献血依頼時などに、採血基準改正に伴う400ml献血可能年齢引き下げのちらしなどを用い推進予定。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
60名以上の参加	献血セミナー	継続	若年層会員	8月	1回	天理教群馬教務支庁 内容(詳細に記載すること) 天理教の若年層を含めた会員への血液や献血についての説明で献血を身近に感じてもらう。そして必要性を理解してもらい、献血への参加及び啓発活動への参加への動機付けを図る。映像素材、パワーポイントを使用
500名以上の参加	献血感謝デー	継続	若年層から高齢者まで	11月	1回	大型の商業施設 日頃の献血への感謝をこめて、献血継続者で対象年齢を超過した方、若年者で多回献血者に対する感謝状贈呈式や、学生ボランティアによる献血説明、複数回メールクラブ会員の募集や健康相談、チャリティーデングショーなどで幅広い大勢の方に献血に関心を持ってもらう。報道機関へのニュースリリースの発信及びDM及び複数回メール会員への参加呼びかけの情報提供
500名以上参加	献血セミナー	継続	若年層	2月	1回	公的な施設 若年層が集まる催し物(演奏会)とコラボし、献血についてのセミナーを開催し献血への理解を深めてもらう。映像素材を使用。報道機関へのニュースリリースの発信及びDM及び複数回メール会員への参加呼びかけの情報提供を実施。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
100名以上	春の献血ふれあいキャンペーン	継続	小学生とその保護者	4月	1回	県立ぐんまの森 移動献血会場で、青少年向けのアトラクションを展開し献血思想の普及と保護者への献血参加の呼びかけ報道機関へのニュースリリースの発信及び複数回メール会員への参加呼びかけの情報提供を実施。
200名以上	春の献血ふれあいキャンペーン	継続	小学生とその保護者	5月	3回	県立群馬こどもの国 移動献血会場で、青少年向けのアトラクションを展開し献血思想の普及と保護者への献血参加の呼びかけ報道機関へのニュースリリースの発信及び複数回メール会員への参加呼びかけの情報提供を実施。
60名	夏休み親子体験教室	継続	小学生と保護者	7月～8月	3日間/1回	血液センター 血液や献血についての説明や血液センターの施設見学を行い、献血を身近に感じてもらう。そして必要性を親子で理解してもらい、子供たちが献血可能な年齢になったときに献血への参加を動機付ける。映像素材、パワーポイントを使用
500名以上	サッカーJ2ザスパ草津と連携し献血PR活動の実施	継続	若年層とその保護者	10月	4回	献血会場(献血バス/献血ルーム) 若年層に人気の地元プロスポーツチーム(サッカーJ2のザスパ草津)選手の協力でホスターの作成プレゼントや、移動採血車による試合会場での献血実施の際に、選手による広報活動やコラボのオリジナルグッズプレゼントなどで献血思想普及を図る

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
目標30社(団体)	献血協力団体及び推進団体の増加対策(休眠を含む)	新規	未実施の企業及び団体	通年	随時	各団体及び事業所等 個別説明会や広報資料により献血啓発活動をおこない新規推進団体及び事業所の開拓を行う(休眠団体や事業所等の再協力依頼を含む)

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
応諾者数(実協力者数) 12,000以上	複数回献血協力者確保対策	継続	前回献血から一定期間未実施献血者	通年	約48回	はがきによる献血依頼 街頭献血会場を基本に、年間を通し安定した血液確保が困難な会場を中心に、1回に約500通のDMハガキを送信し複数回の献血協力依頼をする
応諾者数(実協力者数) 12,000以上	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血メール会員で前回献血から一定期間未実施献血者	通年	約48回	メールによる献血依頼 街頭献血会場で、年間を通し安定した血液確保が困難な会場を中心に、1回に約1,500通の電子メールを発信し複数回の献血協力依頼をする
50名以上 / 1回	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血メール会員及び前回献血から一定期間未実施献血者	2月～3月	約60回	複数回献血メール会員及び前回献血から一定期間未実施献血者に協力依頼 県内3ヶ所の献血ルームで日本リフレクソロジー協会メンバーによる健康アドバイス並びにリラクゼーションの実施 特に2月 3月の献血協力者の増加を図る。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
6000名/年間	複数回血小板成分献血者確保対策	継続	平日の献血ルームでの血小板成分献血者	通年		血小板成分献血者への推進	献血ルームで献血終了後の接遇時に血小板製剤の必要性や有効期限などを説明し、次回の血小板成分献血の予約を受ける。また日々需要が多い場合や型別変動等が発生した場合は、複数回献血者に電話連絡で予約を依頼する

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

千葉県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代の新規献血者を5%増やす	献血セミナー	継続	高校生	9月～12月	3	高等学校	映像素材・パワーポイントを使用して、献血に関するセミナーを行い、献血に対する理解を深める
〃	献血啓発映画上映会	新規	高校生	通年	5	高等学校	献血啓発を目的として、献血啓発映画「八月の二重奏」を高等学校での授業で上映し、献血への理解を深めていただく。
県内応募学校数を10%増やす	献血啓発ポスター募集事業	継続	中学生・高校生	5～9月	1	—	中学生・高校生を対象として、献血啓発ポスターを募り、入賞作品を使った献血啓発活動を行う。(グッズの製作、広報誌への発表他)
10代の新規献血者を5%増やす	血液センター広報誌製作	継続	主に高校生・大学生	通年	4	—	紙面に学生献血推進協議会の活動や、献血に協力していただいている学校・専門学校などを積極的に取り上げ、献血啓発に繋げる

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
50名以上の参加	小学生学習会(青少年等献血ふれあい事業)	継続	小学生とその保護者及び家族	7～8月	1	未定	夏休みを利用した小学生向けの献血セミナーや献血や輸血に纏わる施設の見学や体験を通じて、献血に理解を深めていただく。
5校以上の参加	血液センター体験	継続	主に中学生	7～12月	5	血液センター献血ルーム	中学生を対象とし、映像素材・パワーポイントを使用した献血セミナーと、実際に献血ルームで接遇や協力呼び掛けを体験し、献血に理解を深めていただく。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
臨時献血要請可能な企業の確保10団体	臨時献血要請可能な企業の確保	継続	事業所・大学等	年間			増班時等の臨時献血要請可能な事業所・大学の確保をする。
新規献血協力団体40団体増加	新規献血協力団体の確保	継続	事業所・大学等	年間			年々確保単位数が増加しているため新規協力団体の増加や既存団体の増回を図る。
献血サポーター協賛企業79団体	献血協賛企業活動推進事業	継続	各事業所・推進団体等	年間			国庫補助事業
献血協賛企業を増やす	献血啓発ポスター制作	継続	献血協力企業	6月～	1	—	献血協賛企業のスポーツチーム出演の献血啓発ポスターを製作・活用して、献血啓発とともに、各献血協力団体へ献血協賛を促す。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血協力者を35%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	年1回の献血者	4月～3月		1. 要請ハガキおよびメールによる献血依頼 2. 献血会場において複数回献血クラブ新規会員の募集を強化する	1. 年1回の献血者に対し、要請ハガキやメールにより複数回の献血依頼をする。また、すでに複数回ご協力載っている献血者にも、定期的にご協力戴くよう依頼をする。 2. 血液センターホームページや要請ハガキに複数回献血クラブへの募集案内を掲載する。また、献血ルームには、サイトスタンプを設置し、新規会員の登録を促す。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
冬季・年末年始・年度末の献血者を5%増やす	冬季・年末年始・年度末確保	継続	期間内実施協力団体	12月～3月		記念品を用意して事前PRをする。 期間内実施協力団体への事前PRを行い前年同期内の献血者数を5%増加させる。
電話による献血要請5%増やす	電話献血要請	新規	400mL可能な献血者	通年		電話による要請 400mL献血可能な献血者へダイレクトメールを郵送した方に再度電話要請して確保に努める。
冬期における協力者を5%増やす	番組提供による献血情報放送(FM放送)	継続	県内在住者	11月～4月	24	地元FM局に番組提供しその番組中、献血情報・献血呼び掛けCMを放送する。 放送局 bayfm 毎週金曜日 17:18頃～5分番組で毎週の血液センター名のクレジット及び40秒生CMによる献血情報の提供及び献血呼び掛け
〃	血液型別献血呼び掛けCM放送(コミュニティFM)	継続	県内在住者(君津地区・京葉地区)	12月～2月	期間中毎日	コミュニティFM局によるCMを在庫状況に応じて週替わりで毎日放送 地元FM局(かずさFM・市川FM)で在庫状況に応じて血液型別の呼び掛けCMを選択(全12パターン)週替わりで毎日2回放送
〃	テレビCM放送	継続	主に県内在住の若年者層	12月～3月	150本以上	地元千葉テレビにて献血CMを放送する。 12月～3月中に合計150本以上のCMを放送。千葉BCオリジナルCM及び本社提供素材を併用

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
短大・大学生700人対象に複数回依頼	若年層確保対策	継続	短大・大学生	3月	1	明治神宮	ラクロス協会協力のもと、献血への理解を深めてもらうことと、新規400ml献血者を確保し複数回へ繋げる
高校・大学・専門学校献血の新規・増回(10班)	若年層確保対策	継続	高校・短大・大学生	4～7月 10～12月	1	学校敷地内	献血への理解を深めてもらうことと、新規400ml献血者を確保し複数回へ繋げる
新採血基準における400ml献血の推進と説明会(文化祭・学園祭・地域イベント会場等)	若年層確保対策	継続	10代～20代	通年		献血会場他	同上

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
子育て中の方々協力してもらえるような環境整備	若年層献血者確保対策	継続	20代～30代	通年		献血実施場所すべて	行政との連携、HPやドナー紙等による広報

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規・掘起しを100箇所	協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各企業・事業所等	新規企業・中断団体の開拓を行う。
増回実施50箇所	協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各企業・事業所等	新規企業・中断団体の確保し、既存団体を増回する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
①400mL採血者の8%を携帯メールクラブに加入推進する。	複数回献血者確保事業(携帯メールクラブ推進)	新規	400mL献血者	通年	常時	推進パンフレット等	複数回献血を推進し、必要時の依頼献血を継続していく。
②AB型採血者の20%を携帯メールクラブに加入推進する。	複数回献血者確保事業(携帯メールクラブ推進)	新規	AB型献血者	通年	常時	推進パンフレット等	複数回献血を推進し、必要時の依頼献血を継続していく。
複数回献血クラブの新規登録者3万名確保を目標とする	新規登録キャンペーン	継続	複数回献血クラブ未加入の献血者	通年		献血受付にサイト誘導装置を設置し、携帯電話をかざすことにより会員登録	平成21年度における東京都内の複数回献血者の割合は29.9%であったが、複数回献血クラブ会員に限定すると、その割合は70.5%に達している。このため、継続して会員数増加に重点を置いた対策を推進していくこととする。
献血者一人当たりの年間平均献血回数2回以上を目標とする	複数回献血クラブポイント制	継続	複数回献血クラブ登録者	通年		複数回献血クラブシステムの機能によりポイントを付加する	献血することにポイントを付加することにより、複数回献血の推進を図る。平成21年度における東京都内の一人当たり平均献血回数は1.7回であり、複数回献血クラブ会員の献血回数増加を図ることによって、全体の底上げを図ることとした。
依頼に対する応諾率25%以上を目標とする	献血依頼Eメール配信	継続	複数回献血クラブ登録者	毎月	12	会員に対して献血依頼Eメールを配信する。	採血種類別・血液型別に、会員に対して献血依頼Eメールを配信する。併せて上記1によりメール配信者数の増加を図っていくことにより、安全な血液の安定的確保に資することを目的とする。
依頼に対する応諾率10%以上を目標とする	献血ルーム案内はがき(ダイレクトメール)の発送	継続	各献血ルームにおける一定期間未献血者(複数回献血クラブ会員以外)	毎月	12	統一システムによりデータを抽出・印刷し発送する	Eメール送信対象外の献血者に対してダイレクトメールを送付することで、複数回献血に繋げていくこととする。
依頼に対する応諾率30%以上を目標とする	移動採血会場案内はがき(ダイレクトメール)の発送	継続	前回、同献血会場に来所した献血者	随時		統一システムによりデータを抽出・印刷し発送する	特に、街頭・地域等の移動採血場所を中心に、定期的な献血への協力を依頼する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
献血会場・献血ルームの環境整備	環境整備	継続	16～29歳	通年	常時	環境改善	充足感・満足感のある環境を整える
成分献血の35%以上を事前予約により確保する	成分献血予約	継続	成分献血可能者(特に、血小板成分献血可能者)	通年		各献血ルームごと、時間帯別に予約枠を設け予約を受け付ける	特に、複数回献血クラブの機能による予約受付を強化することで、安定的な予約献血者確保に繋げる。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
県内2センターで毎月1校程度の実施を目指す	17才からの400mL献血キャンペーン	新規	県内高等学校の17才以上の男子生徒	平成23年4月以降随時	12校	県内高等学校(公立・私立)	県内高等学校の17才以上の男子生徒を中心とした高校献血を実施する。
年間100人程度の受入れを目指す	高校生を対象とした血液センター事業・業務等職場体験	新規	県内高校生	原則として、高校生が参加しやすい夏休み期間に1日10組程度	平日に10回程度	各献血ルーム・移動採血会場	県を通じ、県下の高等学校298校に募集(呼びかけ)をし、実施する。
横浜駅(相鉄ジョイナス前)の街頭会場では、赤十字とチームのエンブレムを配した天幕を原則として設置し、献血への親しみやすさを向上させ、1台当たり平均42.5人を45.0人に増加させる。	移動採血における横浜F・マリノスとの共同PR	継続	県民および横浜F・マリノスファンの若年者層対象	随時	横浜市内の街頭会場で可能な限り実施	Jリーグ横浜F・マリノスのホームタウンである横浜市内	献血会場に赤十字とチームのエンブレムを配した天幕を設置する。また、横浜駅東口献血ルームでのキャンペーン展開等には、献血協力者に選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により運動して実施する。
平成23年度以降も継続的(長期)実施をし、献血への親しみやすさを向上させ、若年層献血者のリピーター化をはかると共に、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	献血ルームにおける横浜F・マリノスとの共同PR	継続	県民および横浜F・マリノスファンの若年者層対象	随時	-	横浜駅東口献血ルーム	Jリーグ横浜F・マリノスの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。
ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り(ファン感謝デー1回・公式戦1回以上)配車し、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	横浜F・マリノスの公式戦・ファン感謝デー会場における共同PR	継続	県民および横浜F・マリノスファンの若年者層対象	公式戦・ファン感謝デー開催時期	ファン感謝デー1回。公式戦へ可能な限り配車	公式戦・ファン感謝デー会場	横浜F・マリノスのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。(平成22年度実績、ファン感謝デー1回・公式戦1回)
横浜駅(相鉄ジョイナス前)の街頭会場では、赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を原則として設置し、献血への親しみやすさを向上させ、1台当たり平均42.5人を45.0人に増加させる。	移動採血における横浜ベイスターズとの共同PR	継続	県民および横浜ベイスターズファンの若年者層対象	随時	横浜市内の街頭会場では可能な限り実施	横浜ベイスターズのホームタウンである横浜市内	献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置する。また、横浜駅西口献血ルームでのキャンペーン展開等には、献血協力者に選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により運動して実施する。
平成23年度以降も継続的(長期)実施をし、献血への親しみやすさを向上させ、若年層献血者のリピーター化をはかると共に、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	献血ルームにおける横浜ベイスターズとの共同PR	継続	県民および横浜ベイスターズファンの若年者層対象	随時	-	横浜駅西口献血ルーム	横浜ベイスターズの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。定広広報場所には赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置。
ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り(ファン感謝デー1回・公式戦1回以上)配車し、来年度採血計画302,212人の105%以上を目指す。	横浜ベイスターズ公式戦・ファン感謝デー会場における共同PR	継続	県民および横浜ベイスターズファンの若年者層対象	公式戦・ファン感謝デー開催時期	ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り配車	公式戦・ファン感謝デー会場	横浜ベイスターズのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。(平成22年度実績、ファン感謝デー、公式戦合わせて18回)
川崎市内街頭会場では、赤十字とチームのエンブレムを配した天幕を可能な限り設置し、献血への親しみやすさを向上させ、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	移動採血における川崎フロンターレとの共同PR	継続	県民および川崎フロンターレファンの若年者層対象	随時	川崎市内の街頭会場では可能な限り実施	Jリーグ川崎フロンターレのホームタウンである川崎市内	献血会場に赤十字とチームのエンブレムを配した天幕を設置する。また、川崎駅献血ルームでのキャンペーン展開等には、献血協力者に選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により運動して実施する。
川崎献血ルーム(定広広報場所)では、赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を原則として設置し、献血への親しみやすさを向上させ、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。(※みぞのくちルームは定広広報場所での天幕設置)	献血ルームにおける川崎フロンターレとの共同PR	継続	県民および川崎フロンターレファンの若年者層対象	開所日	開所日は毎日	川崎献血ルーム(※みぞのくちルームでは定広広報場所での天幕設置)	川崎フロンターレの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。定広広報場所には赤十字とチームのエンブレムを配した天幕を設置。
ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り(1回以上)配車し、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	川崎フロンターレの公式戦・ファン感謝デー会場における共同PR	継続	県民および川崎フロンターレファンの若年者層対象	公式戦・ファン感謝デー開催時期	ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り配車	公式戦・ファン感謝デー会場	川崎フロンターレのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。
移動採血車を、湘南ベルマーレのチーム旗(のぼり・横断幕)等で装飾をしたり、藤沢献血ルームでのキャンペーン展開し、献血への親しみやすさを向上させ、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	移動採血における湘南ベルマーレとの共同PR	継続	県民および湘南ベルマーレファンの若年者層対象	随時	平塚市を中心とした湘南地域の街頭会場で可能な限り実施	J2リーグ湘南ベルマーレの地元平塚市を中心とした湘南地域	移動採血車を、湘南ベルマーレのチーム旗(のぼり・横断幕)等で装飾をしたり、藤沢献血ルームでのキャンペーン展開等には、献血協力者に選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により随時実施する。
藤沢献血ルーム(定広広報場所)では、赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置する方向で周辺企業と調整し、献血への親しみやすさを向上させ、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。(※本厚木ルームは定広広報場所での天幕設置)	献血ルームにおける湘南ベルマーレとの共同PR	継続	県民および湘南ベルマーレファンの若年者層対象	開所日	藤沢ルームは開所日(本厚木ルームは週1回程度)	藤沢献血ルーム(※本厚木ルームでは定広広報場所での天幕設置)	湘南ベルマーレの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。定広広報場所には赤十字とチームのエンブレムを配した天幕を設置。

ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り(1回以上)配車し、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	湘南ベルマーレの公式戦・ファン感謝デー会場における共同PR	継続	県民および湘南ベルマーレファンの若年者層対象	公式戦・ファン感謝デー開催時期	ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り配車	公式戦・ファン感謝デー会場	湘南ベルマーレのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。
応募校数 250校	献血の絵ポスター展	継続	小中学生	夏休み期間中	1回	入賞作品の展示については、献血功労者表彰式会場および県内赤十字各施設で実施	県下の小・中学校に募集をし、入賞作品の展示を実施。また、優秀作品を掲載したカレンダーを複製し、出品児童・生徒、献血協力者等に配布する。(平成21年度応募校195校・22年度は203校)
放送回数52回、のべ聴取者数約936万人に対して献血の情報提供を実施し、献血への親しみやすさを向上させ、来年度採血計画302,212人の確保を目指す。	『FMヨコハマ』の番組を活用した広報	継続	一般県民・高校生・大学生のリスナー	毎週火曜日	52回	FMヨコハマ スタジオおよび、献血会場等関係各所にて収録	毎週火曜日14時からの当センターが提供している、地元FM放送局「FMヨコハマ」の番組を活用し、患者様からの「ありがとう」のメッセージの放送や献血に関する情報等を放送する。(当該番組聴取率は約2%、約18万人のリスナー)
参加校数18大学(25団体)、来場者5,500人	第8回ボランティアフェスティバル(ボラフェスタ)の開催	継続	一般県民 (FMヨコハマ特番との連動によりリスナーも対象)	10月中(※土曜日)	1回	「横浜みなとみらい」地区のイベント会場(未定)	大学生(ボランティアクラブ・サークル)・社会貢献団体(ライオンズクラブ等)・プロ野球、サッカーチームの協力(出店)をいただき、ボランティア活動としての献血を県民にアピールする。平成22年度実績 参加校数15大学(22団体)、来場者5,000人
献血未実施校のうちボラフェスタ参加学生が所属する学校では、新規配車働きかけや、ルーム所在地や献血全般の広報を実施	ボラフェスタ参加学生による母校での献血推進	継続	献血実施大学 学生 (※献血未実施校では、他の形での広報)	移動採血車配車時等	随時	ボラフェスタ参加学生の所属校	献血実施大学では、献血者増につながる広報を展開

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成23年度においては、平成22年度まで実施した国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
参加者数 児童生徒200人、保護者150人	小中学生夏休み親子献血教室	継続	小中学生と保護者	夏休み期間中	計20日間程度	県センター(厚木)・横浜駅西口ルームの2会場	血液についての知識や献血について理解を深めるためスライド学習・施設見学を実施(平成22年度実績・児童生徒161人、保護者128人)
各市町村で1校程度実施	出前献血教室	継続	小学生	随時	可能な限り実施	県内小学校	血液についての知識や献血について理解を深めるためスライドを含めた講話を実施

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規紹介20社(団体)	献血実施企業団体等から関係団体(新規)紹介	新規	献血実施企業団体等	随時	—	—	献血実施企業団体等から、関係企業・団体を新たに紹介いただく。
10団体程度	各工業団地会合への献血協力依頼	新規	各工業団地の組合加盟企業	随時	—	県内各工業団地	各工業団地関係者の紹介社(者)を活用する等し、献血に協力をいただけない(または実施しているが小規模)工業団地の会合に出席し、献血協力を呼び掛ける。あるいは、献血推進会合を開いてもらう。
新規協力(協賛)法人100社	集合ビル等での合同献血	継続	集合ビル内テナント各企業	随時	—	献血実施集合ビルおよび、周辺各企業	都市部での献血実施集合ビル等、献血実施場所周辺のテナント企業が複数集まる地域で、同一ビル内および周辺各企業に協力を呼びかける。
『献血協力団体一覧』1,000部複製、新規企業等20社(団体)の獲得を目指す。	『献血協力団体一覧』の複製と配布	継続	献血協力企業及び団体(特に新規企業)	7月前後	年1回	—	献血協力企業及び団体(官公庁を含む)に配布し、グループ企業等関係団体の紹介をいただく。
献血推進団体の会合への出席20団体程度	献血推進団体の会合への出席	継続	ライオンズクラブ、ロータリークラブ、ソロプチニスト協会等	随時	随時	献血推進団体の会合開催地	献血推進団体の例会等の会合に出席し、血液事業の現状に関するスライド等を用いて、地域に根付いた献血推進活動への協力を依頼する
配車先企業・団体総数900社(団体)を目指す	新規(復活)企業の複数回献血へのアプローチ	継続	新規献血協力企業・団体のうち、移動採血車受入回数増に対応可能な団体	随時	随時	献血実施時(打合せ時)	新規献血協力企業・団体(年間30~40社)のうち、移動採血車受入回数増に対応可能と思われる団体に、働きかけを行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
40,000人の依頼に対し年間会員登録予定 3,000人以上	県内で登録者の献血メールクラブ会員募集葉書の送付	新規	メールクラブ未登録の献血登録者	7月～8月	年1回	神奈川県内で献血登録をしている方への献血メールクラブ会員募集葉書の送付	くじ付きはがき(かもめーる)を活用し、効果的な会員の確保を行う。
年間応諾予定 3,000人以上	新規全血登録者への複数回協力依頼ハガキ送付	継続	新規全血(400mL)登録者	4月～3月	年65回	新規に登録をいただいた全血登録者への複数回献血協力依頼ハガキの送付	街頭献血、企業献血等に合わせ、新規登録者(30,000人)に対しハガキによる献血依頼を行う。
50,000人の依頼に対し年間応諾予定 5,000人以上	献血登録者へ街頭献血ご協力ハガキ送付	継続	全血献血登録者のうち依頼対象街頭献血を採血希望場所に指定(登録)している方	4月～3月	年20回	依頼期間内に献血実施予定の街頭献血会場を採血希望場所に指定(登録)している方で、全血献血(400mL)登録者	赤血球の在庫状況により、依頼期間内に献血実施予定の街頭献血会場を採血希望場所に指定(登録)している全血献血登録者へハガキによる依頼を行う。
40,000人の依頼に対し年間応諾予定 16,000人以上	献血登録者へ企業献血での依頼ハガキの送付	継続	全血献血登録者のうち、献血実施予定の企業団体に所属している方で、採血希望場所に指定している方	4月～3月	年45回	全血献血登録者のうち、献血実施予定の企業団体に所属している方で、採血希望場所に指定している方への依頼ハガキの送付	企業、学域、の献血実施に合わせ、その団体に所属している全血献血登録者へハガキによる依頼を行う。
20,000人の依頼に対し年間応諾予定 2,000人以上	献血メールクラブ会員への献血要請	継続	血小板・全血献血登録者のメールクラブ員	4月～3月	年30回	献血メールクラブ会員への献血要請(主に緊急確保が必要な場合)Eメールにより依頼を発信する。	献血メールクラブ会員への献血要請(主に緊急確保が必要な場合)Eメールにより依頼を発信する。
複数回献血協力者 70,000人の確保	複数回献血協力者確保ポイントカード(ドナーズカード)の発行	継続	全ての献血登録者	4月～3月		複数回献血協力者確保ポイントカード(ドナーズカード)作成し、継続協力者に特典を与える。	献血登録者へポイント(特典)を付加することで、複数回献血協力者の確保を図る。
年間献血目標の23,000人に依頼	複数回献血協力者確保用献血再来カードの発行	継続	全献血協力者	4月～3月		県運転免許試験場内設置の二俣川献血ルームでの400mL献血者を、成分献血主体の県内他ルームへの誘導	全血献血を主体としている神奈川県運転免許試験場内設置の献血ルームでの400mL献血者を、成分献血主体の神奈川県内の献血ルームへの誘導

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
新規会員6,000人の確保	新規献血メールクラブ会員の募集	継続	献血協力者全員	随時対応	随時	献血後の献血者に、ポスター・チラシ等で周知する	非接触型サイト誘導装置を献血会場に整備し、さらなる会員確保を図る
年間 26,000人の依頼 4,000人の確保	年末年始対策ハガキ依頼	継続	全血及び成分献血登録者	全血 12/1～1/20 成分 12/26～1/5	年1回	年末年始対策として全血及び成分献血登録者にハガキ依頼を実施	成分登録者へは、主に年末年始期間中の血小板確保対策として献血予約の依頼を実施。
15,000人の依頼 1,200人の確保	ゴールデンウィーク対策葉書依頼(4/29～5/6)	継続	全血及び成分献血登録者	4/28～5/10	年1回	ゴールデンウィーク対策として全血登録者にハガキ依頼を実施	ゴールデンウィーク前後に各1回、合計2回の依頼を行う
1回のキャンペーンで2,000人を確保し、年2回の協力を得られると想定し、のべ4,000人確保	新規献血者確保キャンペーン	継続	献血未経験者	4～6月	随時	新入学、新入社の献血未経験者をターゲットに、各献血会場で来場者等呼びかける。	献血受付場所で、FMヨコハマの放送を流す等、献血未経験者の来所しやすい環境を作り、新規献血者には記念品も贈呈する。
—	『かながわ献血キャンペーン』の実施	継続	県民	春:4/1～5/31、秋:10/15～11/30	年2回	県広報誌・ポスターなどを活用した広報展開	神奈川県庁とタイアップにより実施。けんけつちゃんキャラクター(絵)を使ったポスターを県内の公共施設・学校・献血協力団体・医療機関等に掲示する他、県のたより、県庁ホームページに掲載等を実施する。
献血協力企業(団体)の継続的実施と、新規(復活)企業団体の増加50社程度を目指す	保健福祉事務所及び市町村血液事業担当者会議	継続	保健福祉事務所及び市町村血液事業担当者	3月上旬	年1回	公的機関の会議室を借用して実施	行政担当者が血液事業の現状を理解し、配車計画作成への理解と協力を維持するために開催する

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代～20代の献血率を30%にする	献血セミナー	継続	短大・大学・看護学校生	4月～6月	6回	各学校	新入生を対象に、400mL献血、血小板成分献血の必要性等を理解してもらい、献血協力をお願いする。冊子・パワーポイント等を使用する。
	ボランティアと連携するイベント	継続	特に若年層	8月、12月	2回	ショッピングセンター	告知用広報資材、はがき依頼、メール配信等により周知を図り実施する。
	いしよに献血キャンペーン	継続	短大・大学・看護学校生	4月～11月	10回	各学校	告知用広報資材、メール配信等により周知を図る。ボランティアによる同世代からの呼びかけを実施する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
親子で40組の参加	親子見学会	継続	小学生・保護者	7月～8月	2回	血液センター	献血の流れを説明し、献血バス・血液運搬車の体験乗車及び救急法・非常炊き出しを実施する。
	献血啓発	継続	小学生・中学生・高校生	8月	1回	青少年自然の家	JRCTレセンで献血啓発を行う。冊子・パワーポイントを使用し実施する。展示用パネルも活用する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規献血協力事業所10社増加・休眠事業所の拡大	献血協賛企業推進	継続	事業所・団体	4月～3月		各事業所等	新規事業所の開拓、休眠事業所の掘り起こし。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血率を30%まで増加させる	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月		①はがき及び電子メールによる献血依頼をする。 ②複数回献血キャンペーンを実施する。	①はがき及び電子メールを活用し、年1回の献血者に対して、複数回の献血協力を依頼する。 ②400mL献血者にキャンペーンカードを渡し、キャンペーン期間中に400mL献血に協力いただいた方に記念品を渡す。
複数回献血クラブ会員を1,500名にする	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	4月～3月		事業所・街頭献血等で会員募集リーフレット配布、会員募集イベントを実施する。	①会員募集イベントの実施 ②会員募集用のチラシ・リーフレット、ポスターを作成する。 ③各献血会場での会員募集を強化する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
献血ルームでの一日の平均血小板成分献血者を22名確保する	複数回献血協力者確保	継続	血小板献血可能者	4月～3月		①官公庁・事業所等への協力依頼 ②電話・はがき・電子メールでの協力依頼 ③キャンペーンの実施	①平日での献血協力を各担当者に依頼する。 ②電話等で献血依頼をするともに、男性の55歳以上の方に採血基準変更周知文及び献血協力依頼を併せて実施する。 ③セタ、バレンタインデー、ホワイトデー等キャンペーンを実施する。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	献血セミナー	継続	高校生及び大学生	6月2回、7月2回、10月2回、11月3回、3月1回	10回	血液センター及び各献血会場	献血に関する説明を冊子愛のかたち献血とDVD「WECAN献血」を上映して献血への理解と協力を頂くこととする。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。 高校献血H21年度実績2,148名 H23年度目標2,300名	高校献血の全校実施	継続	高校生	7月～2月	県内42校	各高等学校	少子化により生徒数が減少しているため、将来の献血者確保を図るために全高等学校での献血を実施する。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	大学献血の全施設実施	継続	大学生	4月～1月	県内7大学	各大学	大学構内献血では各大学の学生献血推進メンバーによる献血呼び込みと献血ルームの案内チラシを配付しルームのリピータ確保を図る。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	17才男子の400ml献血推進強化	新規	養護教諭	5・6月	5回	県内5保健所	県内各保健所が主催する献血推進協議会へ各高等学校から養護教諭に出席頂き、400ml献血の必要性を説明し、17才男子の400ml献血への理解と協力を頂くこととする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	青少年等献血ふれあい事業	継続	小・中・高校生	6月、7月、8月、11月、3月	5回	血液センター及び献血ルーム	献血ルームの見学とDVDの上映を行い、献血に関する説明を行う。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	中学生への献血PR	継続	中学生	3月	県内95校	各中学校	県内全中学校の卒業式で対象者9,000人に若年者用パンフレットを配付する。
20代、30代の献血者を増加させる。		継続	各青年会議所メンバー	4月～3月	6回	各献血会場	各青年会議所の定期総会で献血委員長からメンバーへ献血の周知を行い、メンバーは友人、知人へ携帯電話等で呼びかけをして頂くことを依頼する。
20代、30代の献血者を増加させる。		継続	各種学校(警察、消防、自衛隊等)	4月～3月	8回	各献血会場	従来通り、各学校の講義スケジュールへ献血協力を入れて頂くように依頼する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
献血協力企業・団体を10社増加させる。		継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	県保健所等にも紹介を頂き新規事業所の開拓を行う。
年1回の献血実施団体を年2回に依頼する。(5団体)		継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	年1回の献血団体へ再度依頼をする。
企業献血で200名を増加させる。	企業献血の推進	新規	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	周知しにくい事業所の献血者3,000名へセンターからダイレクトメールを入れる。
県内約50社の小規模事業所へ献血依頼を行い20社程に採血車を配車させる。	小回りのきく採血	新規	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	小規模事業所へ直接採血車を配車し一日に3ヶ所、4ヶ所の移動採血を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血協力者を32%までに増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	献血年1回の献血者	4月～3月		はがき・電子メールによる協力依頼	移動・ルームの献血者13,000名以上に対しはがきによる献血依頼を昨年より多く行い昨年の応諾者2700名を上回ることに努める。
複数回献血協力者を32%までに増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4月～3月		複数回献血クラブ会員の募集強化のためにクリアファイルを配付する。	会員の募集に対して記念品の検討と多くの会員が登録されている血液センターの情報を参考にし募集強化を図る。(H23.1月末登録者数2,095名、H23年度末目標登録数3,000名)
複数回献血協力者を32%までに増加させる。	複数回献血協力者確保対策	新規	企業及び団体	4月～3月		はがき依頼と増車を行う。	1、周知しにくい事業所の献血者3,000名へセンターからダイレクトメールを入れる。2、年1回の事業所に対し2回の献血実施を依頼する。3、小規模事業所へ直接採血車を配車する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
献血ルームの献血者を300名増加させる。	献血ルームの複数回献血協力者の確保対策	継続	大学生等	4月～3月		ルームのチラシを配付 移動採血車の献血者並びに大学での献血者に対しルームのチラシ10,000枚を配付する。
献血ルームの献血者を300名増加させる。	献血ルームの複数回献血協力者の確保対策	継続	各事業所等	4月～3月		事業所への献血依頼 ルーム周辺事業所へ定期的(春・夏・冬)に献血への依頼を行い100名以上に協力を頂くこととする。
400mlの献血率を83%にする。	17才男子の400ml献血推進強化	新規	高校献血	7月～2月		各高校を訪問し依頼する 県内42校を訪問し、チラシを作成して17才男子からの400ml献血を推進する。(H21年度高校献血17才男子実績約400名からH23年度は400mlへ200名以上に協力を頂くこととする。)

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)	
学生ボランティアによる街頭啓発活動を4会場 で実施し、10・20代構成比を35%以上確保 する。	学生献血キャン ペーン	継続	若年層を狙った街頭献血 の実施	7月、12月	4	長野駅前 アピタ飯田店	・学生ボランティア(20～30名)により行う。また啓発用資材を作成し、献血者には学 生が選択した記念品をプレゼントを行い、同世代の献血者を勧誘する。 ・献血後にアンケート調査を行い今後の献血活動の参考とする。 ・定期的(月1回)に送迎を実施し定例送迎として定着を図る。(1回4名、年間23回実 施)
学生を200名送迎	学生の送迎	継続	高校生、短大生、専門学 校、大学	4月～3月	25	長野県短期大学 長野工業高等専門学校 長野日大高等学校	・送迎当日は昼休みに送迎実施を記載したティッシュを配布し、授業終了時に送迎 車により献血者を迎えに行く。 ・校内献血以外に年1回送迎を行い、固定施設の場所を覚えていただき今後の献血 につなげる。(1回20名、年2回実施)
固定施設の学生献血率を10%にする	学校前での啓発物 配布	継続	高校生、短大生、専門学 校生、大学生	4月～3月	30	固定施設近隣の学校	・校内献血を実施していない大学や学校前、校内で固定施設の地図の入ったティ ッシュを配布し固定施設へ献血に来所いただく。(1回500名、年20回配布) ・校内献血を実施している学校では、キャンペーン時、血液不足時、校内献血実施 時に、キャンペーン内容、不足血液型、献血受付時間の案内ティッシュを配布する。 (1回500名、年10回配布)
10・20代の献血率を25%にする。	献血セミナー	継続	学生(小・中・高・短大・大 学・専門学校)	4月～3月	20	各校 血液センター	・献血を理解していただくため、学校の行事(文化祭・授業)に献血のビデオ上映、献 血についての説明会を開催する。(10回) ・看護学生の血液センター見学に併せ献血事業の説明、献血に協力いただく。(10 回)

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)	
土曜・休日の街頭献血実施年120回	幅広い年代の受入	継続	企業内献血をしていない 方	4月～3月		大型スーパー 催し物会場	・買い物客が多い大型スーパー、来場者の多い催し物会場で街頭献血を実施し、小 規模企業、大学、短大等採血車が巡回していない人を対象とし献血をお願いする。 ・月10回程度実施し、年間120回を目標とする。
60歳以上の献血者を5%増加させる	60代増加	新規	60歳以上献血者	4月・10月	2	各献血会場	・60歳を過ぎて数年間献血協力ができない方の検索をし、献血依頼はがきを送付する。 (約1500名ほど) ・平成18年以降60代以上の献血者が増加傾向にあるので、更に平成21年度の60代 以上の構成比5.7%から6.2%に増加を目標とする。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)	
新規企業10社実施	新規協力企業の確 保	継続	100名規模の企業	4月～3月		各事業所等	・従業員100名以上の企業が約900社程度あるが献血されていない企業約100社のう ち20名以上献血に協力いただける企業の献血を実施する。(年間5社) ・従業員100名未満の企業で15名程度献血いただける企業の献血を実施する。(年 間5社)
休止企業10社実施	休止企業の協力依 頼	継続	3年以上休止している企 業を訪問し実施する。	4月～3月		各事業所等	・平成20年以降献血を実施していない企業約200社の内、再度献血を依頼できそ うな企業に対し依頼する。 ・少なくとも年間10社程度の休止企業に再度献血をしていただく。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)	
メールによる献血協力者1,000名、応諾率 20%	複数回献血クラブ 会員	継続	複数回クラブ会員	4月～3月	40	・メールによる協力依頼 ・各献血会場において複 数回献血クラブ会員の募 集を強化する	・23年度複数回クラブ会員数を7,000名に増加させる。 ・月2回の定期、血液不足時にメール配信をし、5,000名に依頼、1,000名の献血者を 確保する。
はがきによる献血依頼2,000名、応諾率10%	過去の献血者から 一定期間未献血者	継続	過去の献血者、献血登録 者	4月～3月	24	・はがきによる協力依頼	・1年以上献血していない方を中心に献血を依頼する。 ・年間20,000名の方に献血の依頼を行い、このうち10%、2,000名の献血者を確保す る。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
午前指図の90%確保	午前の血小板確保	継続	血小板献血協力者	毎日	56	・キャンペーン ・依頼 ・掲示 ・送迎	・午前中の血小板確保のためキャンペーンを年2回実施し、血小板確保する。 ・依頼時(ハガキ・メール)は午前中の協力依頼を強調し、月2回程度依頼を行い午前中の血小板確保を行う。 ・午前の血小板献血の必要性を掲示し午前中の来所者を増やす。 ・市町村職員を午前中に送迎し血小板献血をしていただく。(年30回、100名を確保する。)
固定施設の計画数確保	固定施設献血者確保	継続	企業・短大・専門学校	4月～3月	50	・献血者送迎	・血小板確保、全血確保を目的に定期送迎を年40回行う。 ・血液型別の不足時に送迎できる企業を10団体まで増やし不足時に送迎を行う。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)	
若年層(10代・20代)の献血率を30%にする。	若年者献血セミナー	継続	高校生・専門学生・大学生	4月～3月		血液センター または各学校	①学生献血連盟のキャンペーン・年3回予定(夏・冬・春)各開催毎に200人の学生ボランティアを動員して献血会場での声掛けや献血の協力をお願いする。 ②中部学生リーダー研修会の実施。・年2回開催予定。参加学生数100人。各県の学生ボランティアに参加してもらい献血の知識や必要性などの講習を開く。 ③大学では学生献血連盟を主体にし、学内で献血の啓蒙と協力。・90校(複数開催を含む)の実施を目指す。 ④専門学校や高校では血液センター職員による献血事業・献血の意義など説明する。・現在献血協力をいただいている学校については映像(DVD)やリーフレット(愛のかたち)等を使用する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)	
親子血液セミナー(参加者200名)		継続	小学生(親を含む)	7月～8月	5	血液センター 市町村	小学生を対象にセミナーを開く。(ホームページでの広報や固定施設でのポスター掲示。セミナーを開催する施設の付近にある小学校へ事前に訪問し、セミナーの主旨を過去の開催実績など踏まえを説明する。)
出前セミナー(参加者500人)		継続	中・高校生	4月～3月	5	各学校	中・高校生を対象にセミナーを開く。授業や学祭などに出向き血液の話をする。(協力いただいている学校に訪問し映像(DVD)やパワーポイント等を使用する。)

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)	
新規・休眠団体献血実施50社	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施企業・団体と休眠企業・団体	4月～3月		各事業所	献血協力のない企業のHPなど閲覧し社会貢献活動をしている団体に対して電話等を使い、献血の必要性をお願いをする。献血協力団体に対しグループ企業で献血をしていない企業を紹介してもらう。5年以上献血協力が遠ざかっている企業に再度献血の依頼をする。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)	
複数回献血者を35%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	初回、及び年1回の献血者 複数回献血クラブ未登録献血者	4月～3月	1	1. 複数回献血クラブ登録キャンペーンを実施し、各献血会場において会員登録を強化する 2. 電子メールおよびはがきによる協力依頼	1. 複数回献血クラブ会員登録数を12,000名増加させる。特に、大学・専門学校などの若年層中心の献血会場、イベント会場等複数回献血クラブ広報誌やサイトスタンパー等使用し、募集強化を行う。 2. 初回献血者にはがきにて献血依頼要請と複数回献血クラブ登録を促す。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)	
400mL献血率88%		継続		4月～3月		1.400mL献血のみの会場を作る。 2.固定施設での400mL採血の推進。	1.血液センター主催の街頭やスーパーを会場にする。2.200mL献血が多い固定施設の状況を検証し、受付時にリーフレット等を使用して400mL献血の重要性を説明する。(5月～10月)
移動採血における1稼働あたりの確保単位数97単位		継続		4月～3月		1.事業所、団体の見直し。 2.移動回数の見直し。	1.献血者減った企業・団体について内容を検証し、今後の献血への協力体制の見直し。 2.必要数を確保するため、複数回移動を増やす。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代・20代の献血者を25%にする	献血セミナー	継続	高校生・大学生・専門学生・社会人	H24下半期	2回で100人	ショッピングセンター	ショッピングセンターにて病院現場での講話やO×クイズなど大人から子供までが楽しめる内容としたイベント献血を実施
〃	大学・専門学校校内	継続	大学生・専門学校生・教職員	年間を通じて	20回で900人	学内	授業時間内での献血実施と大学祭での献血実施。大学8・専門学校4・高校1実施している。
〃	全国統一キャンペーン	継続	高校生・大学生・専門学生	年間を通じて	8回で400人	ショッピングセンター	献血当日の啓発活動と三重大学応援団による演奏
〃	若年者ペア献血キャンペーン	新規	大学生・専門学校生	春の大学献血	2回で100人	学内	2人以上の若者が対象で献血に協力頂いた場合粗品を進呈し若者の献血増を図る
〃	出前授業	継続	小・中・高校生	年度内	3校各1回	小・中・高等学校	血液の働き、大切さを知ってもらう。 動物愛護センター等と連携し、命の大切さを考えてもらう内容にする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
200人	青少年ふれあい事業	継続	小学生と保護者	年度中	4	血液センター	小学生の親子に対して血液の大切さや助け合いの心について親子で楽しめるクイズ・講演会等の開催
「パパ・ママ献血しようよ！」キャンペーン 200人	年齢層に応じた献血推進対策	新規	お父さん・お母さん	年度中	12	街頭・ルーム	子供の目線から子供さんがお父さん、お母さんに献血して何と尋ねて、人の役に立つことを理解してもらいながら、パパやママが子供達に率先して献血をして頂くキャンペーンとする。20～40代の親子さんを対象として家族揃って献血への理解と協力を求める事を目的とする。献血していただいたお父さん、お母さんには子供さんに粗品を進呈する。HP掲載・事前献血PRポスターに記載。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
成分献血協力団体を新規10団体増やす	献血協力団体増加対策	継続	全血献血協力企業・団体及び少人数の企業・団体	年度内		血液センター等	固定施設周辺の各団体・企業に成分献血への説明と協力依頼を行い、週単位で献血予定を組んでもらう。協力していただく際は、相手団体・企業からセンターまでの献血協力者の送迎を行う。
新規献血協力団体20団体増やす	企業における献血の推進対策	継続	企業・団体の職員	年度内		企業・団体内	新規事業所の開拓・献血実施事業所担当者に系列企業・グループ会社等を紹介して頂く
3年以上休眠状態の献血協力団体20団体の復活	企業における献血の推進対策	継続	企業・団体の職員	年度内		企業・団体内	3年以上休眠企業・団体に対して協力依頼する、企業担当者だけでなく幹部・トップに面会させて頂く
新入社員献血応援キャンペーン 200人	企業における献血の推進対策	新規	企業・団体の職員	年度内		企業・団体内	企業に新入社員及び企業での初献血に協力する人を対象に、献血出来た方に粗品を進呈し、企業献血の底辺を広げることを目的とする

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血クラブ会員を入会依頼ハガキで500名増加させる	複数回献血者確保対策	新規	複数回献血クラブ未加入者	通年	12	QRコードを印刷したハガキの郵送	毎月、移動採血で献血した複数回献血クラブ未加入者にQRコード入りの加入依頼ハガキを送り、複数回献血クラブへの参加を促す。
街頭献血(キャンペーン・イベント開催時)にメールによる献血要請で応諾者数を500人にする	"	継続	複数回献血クラブ会員	通年		メールによる献血依頼	街頭献血での献血キャンペーン等においての献血への参加を誘導するために、地域別に複数回献血クラブ会員を対象に依頼を行う。
葉書による献血依頼で応諾者数を年間2000人にする	"	継続	県内在住の成分献血登録者	通年	12	葉書による献血依頼	固定施設での成分献血を誘導するために、誕生月の成分献血登録者に依頼葉書を出す。
年1回実施企業を年2回実施 7企業	"	継続	企業職員	通年	30	企業担当者の理解を得て企業職員に献血説明会	複数回献血キャンペーンを軸に展開する。担当者へは、今後の血液不足等を丁寧に説明する。
年2回実施企業を年3回実施 5企業	"	継続	企業職員	通年	20	企業担当者の理解を得て企業職員に献血説明会	複数回献血キャンペーンを軸に展開する。担当者へは、今後の血液不足等を丁寧に説明する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
成分献血登録者を100人/月を目標に募集する		継続	成分献血未登録者	通年		移動採血の会場において、登録者の募集を行う	移動採血会場において、献血終了後の休憩中に成分献血の説明を行い、応諾後登録申込書への記入をお願いをする。
血液センター祭りで100人確保		新規	近隣住民等	年度内	1	夏祭りの一つとして行う	血液センターのPR、バス・施設の見学・記念写真・出店等

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
高校献血を新たに3校以上実施	高校献血	新規	高校生	4月～3月	5	県内高等学校	現状6校の実施であり全ての学校で400mL献血の基準がある生徒には勧誘している。学校の方針が「400mL献血は生徒の希望により可能」とする高校を対象とし、3校
献血セミナーを開催 各キャンペーン会場に50名	献血セミナー	新規	高校生～大学生	4月～12月	3	県内献血キャンペーン会場	キャンペーン会場で「八月の二重奏」などを上映し、献血の必要性や知識を伝える。また献血グッズが当たる抽選会などを実施して若者が寄り集まりやすい工夫をする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
小学生～高校生を400名募集 引率保護者を200名募集	青少年ふれあい体験学習	継続	小・中学生及び保護者	7月	1	長浜市内献血会場	献血会場近くからすいすい号に乗船し船内で献血クイズや献血についての勉強会を開催する。(琵琶湖上)

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規登録 10社	新規献血団体増強	継続	県内企業	4月～3月	20	滋賀県内	新規献血協力団体を10社以上増やす

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
20団体 200名の増加	献血団体の年間実施回数 の増加依頼	継続	企業・団体等の献血団体	4月～3月	随時	毎月の配車計画と連携して随時に依頼	年1回の実施先に対し年2回の実施を依頼し、20団体平均10名の増で200名を目標

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
応諾者数(実協力者)3,000名	メール・はがきによる献血依頼	継続	街頭会場等の既協力者	4月～3月	毎月随時	メール・はがきにより献血要請・依頼をする	協力者の目標は、メールでは1,000名以上、はがきでは2,000名以上
新規登録者200名以上	郵送等によるメール会員募集	継続	固定施設等の既協力者	4月～3月	毎月随時	DM等により新規登録者を募集する	固定施設への献血依頼に併せて200名の新規登録を目標にメール会員の募集を行う

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
若年者(16～29歳)の献血者構成比を31%まで上昇させる	献血セミナー	継続	京都第一赤十字看護専門学校新入生	4月	1	日本赤十字社京都府支部	血液事業に関する講演を実施し、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。参加者40人。
〃	献血セミナー	継続	京都府青少年赤十字高校生メンバー協議会	5月と2月	2	血液センター 日本赤十字社京都府支部	血液事業に関する講演を実施し、献血への理解を深めてもらい、献血推進にご尽力をいただく。参加者延40人。
〃	献血セミナー	継続	京都市成人式来場者	1月	1	京都市勸業館	はたちの献血キャンペーンの一環として献血のPR。 けんけつちゃんと一緒に献血検定・写真撮影。献血推進用DVDの放映。来場者5,000人以上。
〃	献血セミナー	継続	高校生	9月	1	京都府立北嵯峨高等学校	学園祭でけんけつちゃんと一緒に献血検定。参加者300人以上。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
親子で400人以上の参加	献血セミナー 「こども献血探偵団」 「こどもレッドクロス隊」	継続	小学校高学年とその親子	7～8月	6	献血ルーム 日本赤十字社京都府支部	献血の意義等の勉強会 献血〇×クイズ 献血2級検定
100人以上の参加	献血セミナー	継続	京都府青少年赤十字トレーニングセンター参加者(小・中生)	8月	1	アクトバル宇治	献血の意義等の勉強会 献血ウルトラクイズ
300人以上の献血協力	献血セミナー 「高校生だよ!! 献血キャンペーン」	継続	京都府内の高校3年生 (卒業予定者)	1～3月	1	献血ルーム 移動採血車	高校卒業予定者へのリーフレット配布
1試合あたり50人以上に検定	献血セミナー	継続	来場者の親子	4～10月	8	京都アストドリームス主催 試合会場	日本女子プロ野球チームとコラボレーションした献血 推進。けんけつちゃんと一緒に試合会場で献血検定。
1開催あたり100人以上に検定	献血セミナー	継続	行政主催のふれあいまつり 参加者の親子	4～11月	6	ふれあい実行委員会実施 会場	行政とコラボレーションした献血推進とけんけつちゃんと一緒に献血検定
1開催あたり100人以上に検定	献血セミナー	継続	ゆるキャラ等イベント参加 者の親子	通年	4	各実行委員会実施会場	実行委員会とコラボレーションした献血推進とけんけつちゃんと一緒に献血検定
児童、保護者併せて60名参加	Kids献血探偵団	継続	小学4～6年生	H23年7月末頃	1	献血ルーム京都駅前	献血に関するセミナーとルーム見学会を開催し、献血への理解を深めてもらう。また、参加された保護者には献血協力をいただく。献血説明用パネル等を使用する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
ロゴマークの配布目標41社(団体)	献血協賛企業活動 推進活動	継続	企業及び団体等	4月～3月		各事業所・団体等	独自のお願ひ文書や説明資料を作成し、それを用いて献血協賛企業等の募集を行う。
新規献血協力企業・団体等を5社・団体を目標に増加させる。	献血協力企業・団体 増加対策	継続	企業及び団体等	4月～3月		各事業所・団体等	新規企業・団体等の開拓を行う。
企業・団体等における年間複数回の協力を3社増加させる。	献血協力企業・団体 増加対策	継続	企業及び団体等	4月～3月		各事業所・団体等	既協力企業・団体等に対して依頼をする。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者の割合を献血者全体の35%まで上昇させる。月1回の定期メール献血要請で応諾率18%を目指す。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月～3月	12	献血要請メール送信	毎月1回、登録会員に協力要請メールを送信する。
複数回献血者の割合を献血者全体の35%まで上昇させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月～3月	12	情報提供メールの送信	毎月1回程度、会員にメールで献血関連の情報を提供し、献血への関心の持続をはかる。
〃	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	10月～12月	8	健康相談事業の実施(ヨガ教室)	会員の健康増進を図り、献血への意識をさらに高めることを目的として、専門家による健康相談を実施する。1回あたり20人の参加。
〃	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	3月	1	講演会の実施	複数回献血と健康管理に対する意識をさらに向上させることを目的として実施する。35人の参加。
新規登録目標数を年間1800人とする。	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4月～3月	1	献血Friends会員募集用リーフレットの作成、情報誌等の作成	複数回献血クラブの会員増加をはかるため、とくに大学・事業所での募集活動を強化する。また、募集する側の意識を高め、業務にメリハリをつけるため、年に6回の登録強化週間を設定する。
応諾率20%	複数回献血協力者確保対策	継続	6カ月前、10カ月前の献血者	4月～3月	12回	ハガキによる要請	6カ月前、10カ月前の400mL献血者の献血者にはがきにより献血の要請を行う。
再来所率 献血ルーム分40%、一部の街頭献血から献血ルームへの来所率20%	複数回献血協力者確保対策	一部継続	献血ルームでの400mL献血者(一部の街頭献血も含む)	4月～H24. 4月	男性3回 女性2回	キャンペーンカードの配布	献血ルーム(一部の街頭献血を含む)での400mL献血者にキャンペーンカードを配付し、次回も献血ルームでの400mL献血を依頼し、次回受付時にキャンペーンカードと引き換えに記念品を渡す。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
応諾率20%	お誕生日キャンペーン	新規	誕生日月の献血者	4月～3月	12回	ハガキによる要請	誕生日を迎えた献血者にハガキにより献血の要請を行い応諾者には記念品を渡す。
応諾率20%	リターン献血キャンペーン	新規	H18年度～H22年度の献血者	11月～3月	5回	ハガキによる要請	H18年度～H22年度の協力者で、献血間隔があいている献血者にハガキにより献血の要請を行い、記念品を渡す。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
400名以上	若年層献血セミナー	継続	小中高校及び大学など	4月～3月	4回以上	各学校及び血液センター	将来の安定的な献血者確保に資するため、幅広い年齢層を対象にH22年度実績である4回(大学生対象2回、高校2回)以上の実施を目指し、新たな実施校の開拓を行う。
県内の高校2・3年生全員	17歳の献血キャンペーン	新規	高校2・3年生	4月～3月	1回	県内高等学校	献血基準変更に伴い、今年度まで実施していた「18歳の献血キャンペーン」から移行。県内50,000人(H22年度実績)以上の高校2・3生を対象に献血認知の拡大を図る。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
320人以上	青少年等献血ふれあい事業	継続	小中高校生(保護者含む)	4月～3月	多数	血液センター等	各種体験学習(保護者含む)を推進し、献血の必要性及び重要性を学ぶ機会を創出し将来の献血者を育成する。
100人以上	夏休み子ども見学会	継続	小学生	7～8月	1～2回	血液センター	献血についての勉強・施設見学・本社から配付されたDVD鑑賞等。回数については、希望者数に応じる(H22年度実績100名)。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
124団体	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業・団体	4月～3月	150回	企業・団体	管内の協賛企業・団体を訪問し、ロゴマークを配布する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
総実献血者数に対する年2回以上の献血者数の割合を27%を目指す。	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月		はがき・封書による献血依頼	年1回の献血者10万人に対し、はがきや封書による複数回の献血協力依頼をする。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
医療機関からの需要に応じた必要な200mL採血を行い、400mL献血を一層推進する。(200mL採血約8,000本/400mL献血率約95%)	400mL献血推進	新規	全献血者	4月～3月		1. チラシ、看板、パソコン(モバイル)の活用 2. キャンペーンの実施	1. 200mL採血の必要数と400mL献血の必要性のチラシ、看板等の資料の活用と献血会場での200mL採血状況のリアルタイム表示 2. 次回献血可能日をPRするキャンペーンを実施

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
年2回開催、参加50人	セミナー開催	継続	高校生、専門学生、短大生、大学生、社会人	4月～3月	2	血液センター	輸血の現状
年10校献血実施	高校献血	新規	高校生	4月～3月	10	各高校	高校生への普及啓発
献血者数全体の5%確保(11校対象)上記(高校献血含む)	大学・短大献血	新規	大学、短大生	4月～3月	25	各大学・各短大	大学生、短大生の普及啓発

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
300人以上の参加	献血まるわかりゼミ	継続	小学生	7月～8月	6	血液センター	小学生への献血知識向上

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
24社登録	新規開拓	継続	企業及び団体	4月～3月	24	各事業所等	新規献血協力企業・団体の確保
12社登録	休眠開拓	継続	企業及び団体	4月～3月	12	各事業所等	休眠事業所・団体の再開の働きかけ

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
平均年間献血回数1.3回	複数回献血キャンペーン	継続	400mL献血可能者	4月～3月		カード配布	移動採血車にて400mL献血を2回以上協力
400mL献血協力者の5%	複数回献血キャンペーン	新規	400mL献血可能者	4月～3月		チラシ・カード配布	移動採血車にて400mL献血者に成分献血をチャレンジ協力

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
年4回実施	固定施設献血者の増加	新規	献血希望者	4月～3月	4	ホームページとメール会員に案内	ウィークデイに実施し、記念品を進呈

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
キャンペーン中の16歳～29歳の若年層献血率を30%にする	学生献血推進協議会主催キャンペーン	継続	若年層を中心とする献血者	7月～2月	7回	県下一円	サマーキャンペーン、クリスマスキャンペーン以外に県縦断学生献血推進キャラバン隊(仮名)を結成し、県下5市で採血車の配車並びに学生による若年層を中心に献血の呼びかけを実施する。
高校生の献血者数を1000人にする	高校生献血学習	継続	高校生	通年	未定	県下一円	職員・外部講師による献血講演を実施し、後日の校内献血または校外での献血参加意識を高める。
4校でセミナー実施 受講者約600人	若年者献血セミナー	継続	大学生、専門学校生	通年	3回	大学、専門学校	大学(2校)、専門学校(2校)で場所を確保し、講演・展示を行なう。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
60歳台の献血率を10%にする		継続	60歳以上の県民	4～3月			当県は高齢者が多く、若者が少ない県である。60歳代の献血可能者(特に60～64歳)1,500人に献血の案内を送り、献血を促すことにより献血可能年齢の延長を図り、高齢者の献血を増やす。
血液管理センター見学を実施に当たり、各新聞社へプレリリース、当センターホームページへ掲載し希望小学生40人以上募る	青少年等献血ふれあい事業	継続	小学生	7～8月	2回	血液管理センター(福知山)	小学生に献血に興味を持ってもらい、将来の献血につなげる。また、同伴の保護者の方にも改めて献血について認識していただき、献血に参加をお願いする。
前回実施校への協力依頼及び各新聞社へのプレリリースを行い100人の参加者確保	青少年等献血ふれあい事業	継続	小学生を中心とする子供達	9～11月	2回	催事会場、小学校	献血車見学、疑似体験と説明により献血に関心を持ってもらう。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規企業・団体5社獲得	新規献血協力企業の開拓	継続	企業・団体	通年			県、各市町村担当者から事業所・団体の情報をいただきと共に献血協力へのアプローチを行い新規事業所・団体の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
1,000人の複数回献血クラブ新規加入	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ未加入者	通年	随時	献血会場で勧誘を行う	接遇時、クラブの入会案内のチラシを渡し説明する。特にメールの扱いに慣れた、若・成年層にターゲットを絞って積極的に勧誘してみる。
応諾数7,360人(応諾率8%) ハガキ依頼延べ8万人 メール送付6回	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者(過去3年) 前回献血から一定期間未献血者	通年	随時	電子メール・ハガキによる案内・依頼	ハガキ8万通(過去3年間献血いただいた方より検索) メール12,000人(2000人×6回・献血のイベント実施時に会員に呼びかける) 前回献血より一定期間未献血者にハガキで依頼
180人に健康相談 健康相談:ルーム3回、120人・バス3回、60人)	健康相談	継続	献血者、献血不適格者	通年	6回	献血会場で健康相談等を行なう	献血者、献血不適格者に動脈硬化測定や健康相談を行なうことにより献血のアピールと健康に関心を持ってもらい、次回の献血に繋げる。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
講演回数10回 うち7校・団体に献血実施。受付数延べ300人。	献血出前講座の実施	継続	小・中学校(父兄を含む) 高校・大学・専門学校・団体	通年	10	講演の実施	講演を行うことにより献血に関心を持っていただき、今後の献血に繋げる。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
年間12回開催し、参加者400人を目標とする。	献血セミナー	継続	小・中学生及び保護者 大学生 県・市新規採用職員	4月～3月	12回	血液センター 県の施設 鳥取大学	献血に関するセミナーを開催し、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。セミナーは年間12回とし、パワーポイントを使用する。
キャンペーン期間中の10代20代の構成比を30%以上にする。	若年層献血 キャンペーン	継続	高校生及び大学生	4月～3月	6回	採血固定施設 移動採血車	母の日、父の日やバレンタイン等の時期を活用し、チラシ等を配布することにより献血の必要性を理解していただく。
18歳から29歳までの協力者の目標を年間10,000人とする。	若年層に対する 献血依頼の強化	継続	18歳から29歳の若者	4月～3月	48回	採血固定施設 移動採血車	はがきやEメールにより、献血の協力を呼び掛ける。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
60歳以上の全血献血者を5%増加させる。	献血者確保対策	新規	60歳以上	4月～3月	12回	採血固定施設	はがきで献血の協力を呼びかける(200名程度)
50歳以上の男性成分献血者を20%増加させる。	献血者確保対策	新規	54歳以上の男性	4月～3月	12回	採血固定施設	はがきで献血の協力を呼びかける(200名程度)
10代の男性400mL献血者を30%増加させる。	献血者確保対策	新規	17歳の男性	4月～3月		移動採血車	学校を訪問し、周知を図る。(15校)

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
5社の増加	緊急要請可能な企業の確保	継続	採血固定施設近隣企業	4月～3月		採血固定施設	新規事業所の開拓を行う。
10社の増加	休眠企業・団体の配車の方法等の拡大	継続	規模縮小により献血実施できなくなった企業・団体	4月～3月		固定施設の周辺事業所	休眠企業の掘り起こしを行う。
協力企業・団体500社	事前推進の徹底	継続	献血協力企業・団体	4月～3月		県内献血協力企業・団体	血液の現状を周知するチラシを事前に持参し、周知を図る。
献血推進活動回数12回増やす	ライオンズクラブ等の連携強化	継続	献血推進協力団体	4月～3月	24回	県内献血推進協力団体	団体主催の事前学習会等に積極的に出向き、現状を説明し理解を求め実施回数を増加していく。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
応諾率を30%以上とする。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月～3月	24回	電子メールによる協力依頼	会員に対し、電子メールにより複数回の献血協力依頼をする。
応諾率を30%以上とする。	街頭献血の協力者確保対策	継続	前回採血からの一定期間の未献血者	4月～3月	12回	はがきによる依頼	はがきで献血の協力を呼びかける(1会場100名程度)
10企業・団体の増加	企業・団体の年間回数の増加	継続	年1回実施の企業・団体	4月～3月	随時	年1回実施の企業・団体を訪問する	血液の現状を説明することにより、理解を求め年間実施回数の増加を図る。
新規会員500人の登録	新規登録者の確保対策	継続	複数回献血クラブ未会員	4月～3月	随時	各献血会場において複数回献血クラブ会員の募集を強化する	各献血会場や大学における献血時には、募集の強化を行う。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
午前中の血小板献血協力者を15人に増加させる。	午前中の成分献血者の確保	継続	成分献血者	4月～3月	2,500回程度	電話による要請 予約制の導入	400mL献血協力者にも説明し、成分献血協力者の開拓を図る。 予約制を導入することにより、安定した確保を行う。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
学生献血推進ボランティア組織加盟校を2校増加させる	学生献血推進ボランティア組織への加盟校参加促進	継続	小学生、短大生、専門学校生	4月～3月		学内献血会場および学生献血推進ボランティア組織主催のキャンペーン会場	学内献血および学生献血推進ボランティア組織主催のキャンペーン会場等において、ティッシュ、パンフレット等を用いてボランティア組織への勧誘を行う。
運転免許センターでの移動採血を70稼働行う	運転免許センターでの移動採血	継続	高校生、大学生 短大生、専門学校生	4月～3月		運転免許センター	若年層の献血協力が多く見込まれる会場である運転免許センターに年70稼働を目標として配車を行う。特に受講生の増加が見込まれる春休み、夏休みの時期に多くの配車を行う。
学生献血推進ボランティア組織の研修会を1回開催し、40名の参加を募る	学生献血推進ボランティア組織の研修会	継続	大学生、短大生、専門学校生	10月	1回	未定	献血に関する知識の習得、キャンペーン会場での呼びかけ時における対応等のロールプレイの実施等を内容とした研修会を年1回実施する。また、参加人数を40名とする。
夏休み小学生親子体験教室を15回開催し、650名参加、参加校数125校を募る	夏休み小学生親子体験教室	継続	小学5,6年生および保護者	7月～8月	15回	血液センター	県教育委員会を通じ案内文を県内各高校へ通知し、実施希望校の募集を行う。
赤十字出前講座を10校で実施する	赤十字出前講座	継続	高校生	4月～3月	10回	県内各高校	県教育委員会の後援をいた後、県内各小学校に参加依頼文・チラシを郵送し参加者の募集を行う。併せて、HPによる参加者募集の呼び掛けも行う。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成23年度においては、平成22年度まで実施した国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
若年層(20代)の献血者数を3%増加させる		新規	20代の県民	4月～3月		固定施設を中心として 全献血会場	献血者にアンケートを実施し、若者にも好まれる「献血処遇品」を選定する。また、年間を通して岡山県の特産品を用いたキャンペーンを実施し献血者の確保を図る。

③ 企業等における献血の推進対策

※ 平成23年度においては、平成22年度まで実施した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
未実施協力団体に対し、30社新規登録を行う	献血協賛企業確保対策	継続	未実施協力団体	4月～3月		県内各未実施協力団体	現在、献血未実施である協力団体を訪問し、献血への理解を頂くとともに、実施を依頼し協力企業数の底上げを図る。
休眠協力団体に対し、20社に献血実施の依頼を行う	献血協賛企業確保対策	新規	休眠協力団体	4月～3月		県内各休眠協力団体	現在、休眠状態である協力団体を訪問、掘り起こしを図り協力企業数の底上げする。

④ 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成23年度においては、平成22年度まで実施した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回クラブ会員へのメールによる要請で応諾者数1,000人以上	複数回献血者確保事業	継続	複数回クラブ会員	4月～3月	5回	血液不足時にメールで献血要請を行う	血液不足時にメールで献血要請を行うが、目標達成のためには複数回クラブの会員数増加が不可欠である。そのため、引き続きサイトスタンプを用いてより一層の会員数増加を図る。
同一献血会場での過去献血者へのハガキによる献血要請で応諾者12,000人以上	複数回献血者確保事業	継続	同一献血会場での過去献血者	4月～3月	4,200回	過去献血者に対し、ハガキにより献血要請を行う	同一献血会場での過去献血者へハガキによる要請を行う。それにより事前周知を図るとともに、献血の重要性を認識していただく。
年1回協力の(企業・団体)に対し、20社に複数回実施への移行を行う	複数回献血者確保事業	継続	年1回協力の(企業・団体)	4月～3月		献血実施の依頼時に、年複数回の実施を要請する	事業所等へ献血実施の依頼等で渉外活動を行う際、血液事業の現状を説明し年複数回協力いただけるよう要請する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
血小板成分献血の実献血者を4,500人確保する	固定施設における成分献血の確保	継続	血小板成分献血協力者	4月～3月	20回	ポスター・チラシの作製及び配布による呼びかけ	岡山市内の大学・専門学校等に「血小板成分献血の協力をお願い」ポスターを配布し、固定施設での成分献血の参加を呼び掛ける。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	内容(詳細に記載すること)
親子含めた参加者数250名以上	なるほど献血教室	継続	小学校高学年とその保護者	平成23年7月後半～8月前半	6回	広島県赤十字血液センター・日本赤十字社広島県支部 小学4～6年生とその保護者を対象に、血液センター見学会を開催、将来の献血者確保に努めるとともに保護者への献血協力を促す。募集方法は広島市内及びその周辺の小学校高学年全員を対象にチラシを配布、また県や市の広報誌とセンターHPで募集を行う。見学会には映像素材やパワーポイントを使用する。
訪問校数12校	献血教室	継続	高校献血実施校及び大学・短大・専門学校生	平成23年4月～平成24年3月	随時	各学校 献血実施校の生徒を対象とし、献血の必要性を講義。その後の校内献血への参加を促す。
受入校数5校	職場体験学習	継続	県内中学生	平成23年4月～平成24年3月	随時	広島県赤十字血液センター 中学校カリキュラムの職場体験学習を積極的に受入し、参加生徒に献血の必要性を訴え将来の献血者確保に努める。
10代～20代の献血率を27%にする。	献血セミナー	継続	大学生(短大生含む)	平成23年4月～平成24年3月	2回	広島県赤十字血液センター 献血に関するセミナーを開催し、献血への理解を深め、献血協力、呼びかけ、普及の協力をお願いする。
10代の献血者を4%とする。	高校卒業予定者献血広報資料配布	継続	高校生(卒業予定者)	平成24年1月	1回	各学校 卒業予定の高校生に献血に関する広報資料を25000部配布する。日頃から「献血」が目に見えるように、また卒業後も献血に関心を持ってもらうため、10代の献血率を4%を目標とする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	内容(詳細に記載すること)
54歳以上の血小板成分献血経験者に対する献血依頼で30%の応諾率を確保する		新規	54歳以上の既献血者(血小板献血経験者)	4月	1回	血液センター 献血基準の変更を、満54歳以上の血小板献血経験者の方にハガキでお知らせし、引き続き協力をお願いをする。対象はH20年1月以降の血小板献血経験者でH23年3月末現在満54歳以上の約700名。情報提供や献血要請を行うことにより、対象者の約30%(210名)から血小板献血に協力いただく。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	内容(詳細に記載すること)
新規献血事業所10団体確保	新規協力団体確保対策	継続	献血未実施団体	4月～3月	随時	各事業所等 新規事業所の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者確保目標人数5,183人	複数回献血クラブ会員募集	継続	複数回献血クラブ未登録者	平成23年4月～平成24年3月	随時	複数回献血クラブ登録勧誘リーフレットの作成・配布と職員による勧誘 全献血者を対象にリーフレットを配布し、登録を促す。また、全献血会場にサイトスタンパーを導入し、より簡単に仮登録できる環境を整備する。さらに登録者を増加させる為ノベルティを作成し、その場で仮登録した献血者に配布する。
メール要請応諾率15%を目標	複数回献血クラブ会員献血要請	継続	複数回献血クラブ会員	平成23年4月～平成24年3月	月1回以上	登録者への献血依頼メール配信 これまで不足時のみ配信していた献血依頼メールを月1回以上配信する。タイミングは月頭とし、時候の挨拶等を含めた献血依頼を定期的に配信することにより、登録者に複数回献血への協力を促す。
月平均応諾率27%を目標とする	ハガキによる献血要請	継続	血小板献血協力者	平成23年4月～平成24年3月	月1回	誕生日献血の依頼・3ヶ月以上未献血者への協力依頼 誕生日を迎える血小板献血者に向けて当月頭に献血依頼ハガキを送付。対象者が献血参加した場合記念品を配布する。
ハガキ要請応諾率36%を目標とする	ハガキによる献血要請	継続	県内400mL献血協力者	平成23年4月～平成24年3月	随時	移動採血バス400mL協力者への献血依頼 移動献血会場での協力者に同会場での献血を依頼するハガキを送付し献血協力を促す。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	内容(詳細に記載すること)

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
30歳未満の献血者の割合を20%にする	セミナー開催	継続	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	通年	年間2回開催	血液センター会議室	年2回講師を依頼し、献血についての知識、理解の普及。他団体との交流を回り推進協力輪を広げる。
30歳未満の献血者の割合を20%にする	学生推進協議会役員会	継続	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	通年	年間15回開催	血液センター会議室	山口県学生推進協議会の企画、運営を行う、また加盟団体との情報交換の橋渡しをする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
参加者合計250名	小学生親子血液センター見学体験教室	継続	小学生高学年	夏休み	6回	血液センター	血液センター及び採血車・血液運搬車の見学、血液・献血についてスライドで説明、啓蒙DVDの上映、献血疑似体験
県下全校の小・中・高校を対象に合計40校	献血出前講座	継続	小・中・高校生	通年	40回	各学校	血液・献血についてスライドで説明、啓蒙DVDの上映。
応募数ポスター150点、作文100点	献血推進ポスター・作文の募集	継続	中・高校生	5月～10月	1回		県下全校に募集し選考委員により表彰を選考し県にて表彰。
17,200部	献血読本の配布	継続	中・高校生	6月	1回	各学校	高校1年生全員及び中・高校各学級に1冊、

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
20社	新規献血協力企業の確保	継続	新規企業・休眠企業	通年	1回ずつ	移動採血車・固定施設	県・市町と依頼を実施

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
複数回献血協力者を400人の増 12月現在1,978人	チラシの作成配布 60,000枚	継続	献血者	通年	都度	配布	登録依頼及び協力
400mL献血者3,000人の増	イベント・キャンペーンの実施	継続	献血者	通年(特に減少時)	数回	DM・タウンメール等による要請	移動採血車・固定施設で処遇品を考えて

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
各会場で400mL献血者10名増	七夕献血		献血者	7月	2回	街頭献血で実施	山口県学生献血推進協議会の協力当日協議会の学生学生ボランティアによる呼びかけ。事前PR(ラジオ等)を活用。七夕らしいイベントの実施。
各会場で400mL献血者11名増	クリスマス献血		献血者	12月	3回	街頭献血で実施	山口県学生献血推進協議会の協力当日協議会の学生学生ボランティアによる呼びかけ。事前PR(ラジオ等)を活用。クリスマスらしいイベントの実施。
固定施設の活性化当日100名の献血協力	公開放送		献血者	12月	1回	固定施設で実施	人気番組にゲストを依頼し公開放送を企画し、当日観覧に来られた方の協力をあおぐ。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
参加者数を340名以上とする。	血液ゼミナール	継続	小学生(4～6年生)と保護者	7～8月	8回	血液センター	2市2町の教育委員会の承認後、小学校55校に募集チラシ約12000枚を送付し、親子を対象に募集を行い、血液についての学習会、血液センター見学、献血模擬体験等を実施する。
10代の献血構成比を5%にする。	高校献血	新規	高校生	4～3月	5回	対象学校	現在休止している高校校内献血を復活させ、県教育委員会等に再開の説明を行い400mL献血受け入れ可能な学校を対象とする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
29歳までの献血構成率を25%にする。	大学献血	継続	大学生	4～3月	10回	各大学構内	献血推進パネルの展示と啓発DVD放映、ボランティアによる推進活動を実施する。実施時期4月4会場、9月4会場、2月2会場の予定。
〃	次回献血推進	新規	10～20代	7～2月	3回	各献血会場	7月、11月、2月を起点として、献血間隔が一年以上あいている献血者(固定施設で約1000名、移動採血で約2000名/平成23年1月時点)を検索し、依頼ハガキを送付する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
新規献血協力企業を10社増加する。	献血協力企業・団体増加対策	継続	企業及び団体	4～3月		各事業所	新規事業所の開拓ならびに休眠企業の掘り起こしを保健所と連携して行う。血液センターで掘みにくい各地域の企業状況(起業、既存企業の職員動向等)を保健所から連絡してもらい一緒に推進する。
休眠企業の掘り起こし目標10社	献血協力企業・団体増加対策	継続	企業及び団体	4～3月		各事業所	

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
モバイル会員を300名増加する。	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4～3月		リーフレットの配布及びサイドスタンプの設置	QRコード及びモバイル支援システムのサイドスタンプを活用しモバイル会員増加を強化する
複数回献血率を30%まで増加させる	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4～3月		1.メール発信による要請 2.検査サービスハガキ発送時に依頼。依頼文面に記入する	1.モバイル会員に対しメール発信にて依頼要請する 2.検査サービスハガキ発送時に複数回依頼文面を記入する

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
移動採血車一台当たりの献血者数40名以上とする		継続	移動採血車配車箇所全献血者	4～3月			移動採血実施全箇所について時間効率を見直し配車する

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代・20代の献血率を現状より2%増加させる。	献血セミナー	継続	大学生・専門学校生・高校生	4月～3月	10回	各学校	献血に関するセミナーを開催し献血への理解を深めてもらい、献血協力を促す。参加予定人数:800名
	高校生街頭献血キャンペーン	継続	高校生	7月・1月	2回	街頭献血現場	献血に関する勉強会を行い、その後、街頭献血にて献血呼びかけボランティアを行う。このことにより、献血への理解を深めてもらい、将来の献血へのきっかけづくりを行う。参加予定人数:100名

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
小学生の父兄世代(30代・40代)の献血率を現状より2%増加させる。	血液センター親子見学会	継続	小学生	8月	3回	血液センター	児童には、献血について分かりやすクイズ等を含めたスライド学習により、献血を知っていただくことを目標とする。将来の献血世代の拡充を図る。
	献血出前講座	継続	小学生	10月～12月	10回	小学校	また、同時に父兄向けに映像素材「ありがとうっていっぱい言わせて」を使用し、献血の必要性を訴え、献血協力増を図る。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
献血協力企業・団体を50団体増加させる	献血協力団体増加対策	継続	企業および団体	4月～3月		各企業および団体	市町担当者と同行して事業所を訪問し、新規事業所の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者を現状より20%増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月から3月		1. 各献血会場にて複数回献血クラブ会員の募集を強化する。 2. 電子メール及びはがきにて複数回献血の協力依頼	1. 各献血会場にて、複数回献血クラブ会員を現行より20%増加させる。 2,233名(平成22年12月末現在) → 2,700名 特に、学域献血時にイベントを実施し募集を強化する。 2. 複数回献血クラブ会員に対して、電子メールにて複数回の献血協力依頼をする。(2,200名を対象に年30回程度)

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
献血ルーム1稼働50人	献血協賛事業	継続	献血ルーム周辺企業及び大学・専門学校・高等学校	4月から3月		献血ルーム周辺の企業及び大学・専門学校・高等学校に献血協賛を依頼する。	献血ルーム周辺企業及び大学・専門学校に、協力期間を1週間程度とした献血協力を目的とした献血協賛を依頼する。 献血ルームにて献血協力をいただいた企業等に対しては、ホームページに掲載する等、協力企業のアピールを行う。このことにより各企業の知名度を上げることにより献血協力(社会貢献活動)を実施しやすい環境づくりを行う。 来年度以降は、採血基準改訂で17歳男性が400mL献血可能となるので、高等学校に献血ルームでの献血セミナー開催及び献血実施を依頼する。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
学内献血における協力者5%増	献血セミナー	継続	大学生	4月～5月	8回	各大学 新入学生対象のガイダンス時に献血広報を実施(現在2大学依頼中)するとともに後日学内献血を実施し協力者の確保に努める パワーポイントを使用して若年層献血者の減少や、県内供給量の状況説明ならびに広報用DVDの利用
小学生親子体験教室(親子65組)	献血セミナー	継続	小学生親子	8月	5回	血液センター 献血ルーム 松山赤十字病院 小学生親子を対象に、ビデオ等を使用する会議室での座学や、ルームでの献血見学ならびに病院での輸血見学を実施
出前教室の開催80校	出前教室	継続	中・高校生	4月～3月		各中学校・高等学校 中学生を中心に献血に関する広報、教育を実施し、将来の献血者確保に努める パワーポイントを使用し、所長が医師としての体験談を踏まえながら献血の重要性を説明

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
学内献血回数の増(20会場/年)		継続	高校生・専門学校生 短大生・大学生	4月～3月	20	学内 4月の入学シーズンを重点として、大学生の確保に努める 400ml献血が男性に限り17歳に繰り下げられることから、これまで教職員のみを対象にしていた学校での生徒の献血、また新規に協力いただけた高等学校の開拓を、県教育委員会の理解、協力を得ながら推進する

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所 内容(詳細に記載すること)
新規・休眠献血協力企業の増加(30社/年)	献血協力団体増加対策	継続	企業および団体	4月～3月		各事業所 ライオンズクラブ等の紹介により獲得に努める

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
複数回献血クラブ加入者の新規登録者確保(900名/年度)	複数回献血協力者確保対策	継続	献血対象者	4月～3月		各献血会場における複数回献血クラブ会員の募集強化 特に4月～5月に実施する大学(2カ所)や企業(70カ所程度)での献血時に、新入生や新社会人に対して献血現場での勧誘強化 複数回献血クラブ加入時の記念品の工夫 年間配車台数約620台で1台につき1名の登録+ルームでの登録280名を最低目標にして設定

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
献血者数190名 (初回献血者15%・参加ボランティア50名)	夏の献血キャンペーン	継続	若年層ならびに初回献血者	7月初旬	1回	大型商業施設内でのイベント開催 学生ボランティアを募り、献血への協力ならびに現場での呼び掛けを実施。 SRC・JRCをメインに高校生を主体としたヤングボランティアへの協力依頼、ならびにイベント会社による一般大学生のボランティア募集
献血者数150名 (初回献血者15%・参加ボランティア40名)	冬の献血キャンペーン	継続	若年層ならびに初回献血者	成人式前	1回	大型商業施設内でのイベント開催 学生ボランティアを募り、献血への協力ならびに現場での呼び掛けを実施。 SRC・JRCをメインに高校生を主体としたヤングボランティアへの協力依頼、ならびにイベント会社による一般大学生のボランティア募集

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
移動献血及びセミナーの実施校4校、各々2回以上の実施、1,000人以上の参加者	若年層確保対策	継続	大学・短大・専門学校生	4月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。 また、けんけつちゃんの着ぐるみで呼びこみ等を行い、大学生が献血しやすい雰囲気を作る。
10代～20代の献血者率25%以上	若年層確保対策	継続	10代～20代の献血者	通年	6	学内・団体及び献血プラザが	各短大・専門学校等にチラシを配布する。 また、10代～20代を対象に期間を決めてキャンペーン等を年6回実施するよう企画する。内容については今後検討していく。 参加目標人数 300人

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
60歳以上の献血者を5%以上増加		新規	60歳以上の方	4月～12月	6	各献血会場	60歳～64歳までの期間に献血されていない献血者(約300人)に対し、献血依頼のはがきを出す。
献血教室参加者100人以上	青少年ふれあい事業	継続	小学生	夏休み	1		新聞広告等を利用し、県内の小学生を対象に募集を行う。 スライド等を利用し、献血の必要性や重要性を少しでも理解してもらう。
出前献血教室 6校以上	青少年ふれあい事業	継続	高校生	9月～3月	6	学校内	現在献血を行っている高校5校に対し、献血教室の事前開催を推進する。 また、献血教室についてはスライド、ホップ・ステップ・ジャンプ、DVD等を使用して献血の必要性等を理解してもらう。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
企業献血における献血者数を対前年比10%増		新規	企業及び団体	通年		各事業所等	担当者に現在の血液事業の現状や必要性を推進の中で説明し、理解を得る。 また、献血した血液の利用状況等がわかるような資料を作成する。
献血サポーター新規登録企業10社以上	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年			企業及び団体へパンフレット・規約等を持参し推進する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血クラブ会員総数を1300人以上	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血者(複数回献血クラブ未会員)	通年		・複数回献血クラブ会員登録推進パンフレットの配布 ・サイトスタンプによる登録の簡易化	複数回献血クラブ会員登録方法を記載したパンフレットを複数回献血協力者で未登録の方に配布し、パンフレットのQRコードとともにサイトスタンプを導入して登録の簡便化を図る。
複数回献血者30%以上	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	通年		・メールによる複数回献血への協力依頼及びイベント等の案内 ・次回献血の推進	・複数回献血クラブ会員あてに献血者減少期を中心に複数回献血への協力を呼びかける。 ・献血イベント等の情報を送信することで、血液センターや献血バスへの再来のきっかけとしていただく。 ・処遇時に次回献血可能日をお知らせして年に2回以上来ていただけるよう推進する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
血小板献血者数5%増加		新規	55歳以上の男性	通年	6	はがき及びチラシ等による献血依頼	55歳以上の男性献血者(約300人)へ基準変更のお知らせと献血依頼のはがきを送付する。
献血プラザがの献血者数5%増加		新規	献血対象者	通年	5	はがきによる献血依頼	過去1年間献血されていない方(約200人)へはがきで献血依頼を行う。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

長崎県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
年1回	献血セミナー	継続	大学生及び専門学校生	11月	1回	長崎県内	学生ボランティアの研修による組織の活性化を図る。学域内外における献血推進の強化とメンバー相互の連携を密にして情報を共有する。
年5回	献血セミナー	継続	大学生及び専門学校生	4月～8月	5回	九州ブロック内	学生ボランティアの研修による組織の活性化を図る。学域内外における献血推進の強化とメンバー相互の連携を密にして情報を共有する。
年2回	献血セミナー	新規	中高生	10月・11月	2回	長崎県内	校内行事として献血講演を実施。10校に依頼して2校実施にむけてすすめる。校内献血実施前に学校側に献血の必要性を強く訴える。
25校	若年層確保対策	継続	高校生	4月～6月	1回	各高校	17歳(男子)以上の400mL献血の推進強化のための学校訪問。現在未実施校も含めて全学校訪問し17歳からの献血受け入れをお願いしていく。行政担当者も可能な限り同行いただく。
10歳～20歳代の献血率を25%以上に増加する	若年層確保対策	継続	10歳～20歳代	4月～3月	5回	献血会場	若者向け献血キャンペーンの実施。学園祭会場に献血コーナーを設置しPRする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
年2校	育友会献血	継続	小・中学生・生徒保護者及び教員	4月～3月	各校1回	血液センター・献血会場	献血事前説明会、献血会場での小・中学生献血セミナー実施。「献血のしくみを知ろう」授業テキスト小学生向け対象学年用と九州ブロックで作成した「みんなの献血」パンフ及び愛のかたち献血の資料を活用し、献血会場や事前説明会で実施する。
年100人	若年者確保対策	継続	20歳(新成人)	1月～2月	1回	献血会場	20歳(新成人)への献血ハガキ依頼。過去1年間に献血1回のみ協力者に対して依頼する。
60歳以上の献血者を5%以上に増加する	献血者確保対策	新規	60歳以上	4月～3月	—	献血会場	再来率の向上と採血基準の改正に伴う献血推進の強化。特に血小板採血について次回の予約や可能年齢変更のお知らせのほがき依頼をする。
年40人	体験学習	継続	小・中高生	4月～3月	各1回	献血ルーム	献血呼びかけ、施設見学。街頭でのチラシ配布や献血のしくみについての学習をする。
年20人	体験学習	継続	大学・短大・専門校	4月～3月	各1回	献血ルーム	献血呼びかけ、施設見学。献血体験や学生ボランティアの活動内容の把握と献血のしくみについて学習する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規献血団体等を30社増加する。	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月	—	—	新規及び掘り起こし団体・企業の開拓
42社の登録確保	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	4月～3月	—	—	企業・団体等を訪問し、献血の必要性を訴え、ご理解の上献血サポーターの登録をお願いする。献血サポーターマークの活用を進めていく。
年2回実施	新規団体などの開拓	継続	ライオンズクラブ・一般企業	4月～3月	各年2回	献血ルーム	献血ルームでの献血呼びかけと献血実施

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
50名	複数回献血協力者並びに赤十字ボランティア研修会	継続	複数回献血協力者及び献血協力者・ボランティア	3月中	1回	電話又はFAX、メールから申し込む	ビデオ(八月の二重奏)上映又はこれに類した外部講師を招き講演会及び健康生活支援短期講習を開催する。
応諾率 400mL(35%)成分(50%)	メールとハガキによる献血依頼	継続	複数回献血クラブ会員、献血協力者	毎月	未定	ハガキによる依頼	400mL(600名)・成分(1200名)・区分なし(2700名)に対し献血協力依頼。
60組(120名)	「献血をして映画を観に行こう」キャンペーン	継続	複数回献血クラブ会員、献血協力者	4月中	1回	希望者の中から抽選で60組決定する	日頃から献血に協力いただいている方60組を感謝の気持ちを込めて映画に無料招待し、はじめに所長よりお礼と血液事業の現状について説明していた後に映画上映をおこなう。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
月5ヶ所実施	献血者確保対策の拡大	継続	全献血者	4月～3月	—	イベント等に合わせた合同実施	商業施設及びイベント会場等での休日における献血の拡大

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
10代～20代の献血者数を30%まで引き上げる。	大学内献血の強化	継続	大学生	通年	20回	学内献血会場	事前広報活動でのDVD上映会(それぞれの学内で教室を借り受けての上映会になるため人数目標は全大学で合計500名)
小学生300人	施設見学会	継続	小学生とその保護者	7月～8月	4回	血液センター	体験型献血セミナーと赤十字事業の紹介 募集方法としては①新聞折込生活情報誌(タブロイド版)夏休み特集号記事掲載 ②メール会員への参加者募集メール配信 ③HPへの案内掲載
小学校訪問(出前授業)10回	県内小学校	新規	小学生(保護者)	通年(夏冬休み以外)	10回	受入れ小学校	パワーポイントやハービットを使って楽しく献血を学ぶ 出前型献血セミナー。募集方法としては教育委員会経由で各小学校へ案内文書の発送を予定(第一段階としては熊本市80校)

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
10代～20代献血者数を3%上昇させる。		新規	大学生・高校生	夏休み	1回	血液センター	大学生ボランティアの企画運営によるオープンキャンパス型献血セミナーの開催

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
献血協賛企業活動推進事業年間ロゴマーク配布80社	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業・団体	通年		献血実施のための打合せ時	献血協力企業に依頼・情報誌でロゴマークのPR
新規事業所及び団体を10社	〃		新規事業所及び団体	通年		企業・団体	企業訪問・各種団体での説明会・情報誌での協賛企業紹介

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
複数回献血者数を35%に増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	通年		DMIによる協力依頼と複数回キャンペーンの実施	献血後6カ月を経過した献血者に対して送付しているバースディハガキ献血可能日を過ぎたタイミングで送付。(年間約23,000通)
複数回献血クラブ会員30%増	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	通年	4回	会員限定イベントのPRにより会員増を図る	現在実施の健康トレーニング・中庭コンサートに加えて(変えて)健康ウォーキング・ストレッチヨガ講習会・薬膳クッキング教室の開催

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
初回者献血率10%に上昇させる。		新規	高校生・大学生	通年		献血デビューキャンペーンの実施	17歳への基準引き下げPRに併せて初回者及び初回献血者を同伴した献血者に対してハービット系ぐるみストラップを進呈。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
20代の献血者率を20%まで上げる (平成21年度18.3%)	大分県学生献血サポーター	継続	学推協加盟の学生	7月	1	大分県内	採血バスに同行し、献血会場周辺での献血啓発や大分トリニータのホームゲーム前ピッチでの献血協力の依頼をサポーターに向けて呼びかける。
20代の献血者率を20%まで上げる (平成21年度18.3%)	二十歳の献血街頭広報	継続	成人者(二十歳)	1月	1	成人式会場(大分市)	献血に関する展示ブースを成人式会場に設け、新成人に献血を理解していただくため啓発を行う。
参加加盟校10校に増やす (各研修会等の参加が7校/25校)	愛の献血ふれあいフェスタ	継続	九州ブロック学推協	8月	1	佐賀県(輪番)	九州ブロックセンター連盟の若年層献血推進事業として開催し、各県の活動報告等を行い献血の意義などを情報発信する。
参加加盟校10校に増やす (各研修会等の参加が7校/25校)	大分・熊本県学推協合同研修会	継続	学推協加盟の学生	2月	1	熊本県	各県学推協の活動報告を行い、グループワーク等により今後の活動計画を議論し、資質の向上や相互の連携強化を図る。
参加加盟校10校に増やす (各研修会等の参加が7校/25校)	大分県学推協全体研修会	継続	学推協加盟の学生	5月	1	大分市内(研修施設)	学推協加盟校の学生に献血の意義、現状等を学んでいただき、学内献血や街頭献血時のボランティアに活用させていく。
10・20代の献血者率を26%まで上げる (平成21年度22.7%)	クリスマス献血キャンペーン「赤十字ふれあい広場」	継続	地域住民・学推協	12月	1	センター	県内赤十字施設とともに実施し、冬季の献血者確保と若年層献血の啓発や赤十字活動の紹介をする。
10代の献血者率を6%まで上げる (平成21年度4.4%)	若年者献血セミナー	継続	高校生 (支部トレセン参加者)	8月	1	トレセン会場	支部主催のトレーニングセンターに献血セミナーとしてプログラムに取り入れてもらい、献血啓発を図る。
10・20代の献血者率を26%まで上げる (平成21年度22.7%)	学内400mL献血キャンペーン	継続	学内献血者	通年	—	学内献血会場	大学・短大・専門学校の献血において、学生が好む処遇を進呈する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
参加者100名(各50名)	親子けんけつ教室	継続	小・中学生の親子(80人)	8月	2	センター・献血ルーム	献血の現場や九州センターを見学し、献血の必要性を理解していただき、将来の献血者を確保する。
参加者80名(各40名)	献血ふれあい	継続	小・中学生 (支部トレセン参加者)	7・8月	各1回	トレセン会場	支部主催のトレーニングセンターに献血出前教室(「教えてけんけつちゃんDVD」「みんなの献血:九州ブロック作成」を教材として使用)としてプログラムに取り入れてもらい、献血の重要性を理解していただいている。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
献血サポーターロゴマーク10社配布	献血者安定確保	新規	献血協力団体 (LC・事業所)	通年	週1回	—	地方紙の夕刊に週1回献血協力団体へお礼のメッセージを掲載する。協力事業所の社会貢献PRにもなるため、渉外による協力依頼にも有効である。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
クラブ会員の献血者100人増	複数回献血クラブ 会員サービス事業	継続	複数回献血クラブ会員	①9月・2月 ②9月 ③2月 ④通年	①2回 ②1回 ③1回 ④随時	①情報誌の発行(年2回:9月3月) ②講演(年1回:9月) ③健康相談(年80人:2月) ④メール依頼(型別不足時)	情報誌の発行及び医師等の講演会の開催や健康相談(骨密度測定)を実施する。また、型別などの血液不足時の献血協力をメールにて依頼する。
応諾率19%	献血協力依頼	継続	複数回献血者	毎月	毎月	ハガキによる献血依頼 (月20~25会場:1回当たり約100人)	街頭献血や事業所献血(依頼許可有り)での過去1~2年の同会場での献血者へハガキによる献血依頼を送付する。
新規会員100名増	複数回献血クラブ 会員増員	継続	献血者	常時	常時	QRコード入りの会員募集チラシを献血会場や献血ルームにて全献血者へ配付する。	QRコード入りの会員募集チラシを献血会場や献血ルームにて全献血者へ配付する。平成22年度より実施し、効果があるため継続して行う。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法 内容(詳細に記載すること)
献血者100人増	ライオンズクラブ献血推進セミナー及び研修会	継続	LC会員	7月・11月	2回	セミナー(各クラブより3名)研修会(各クラブ1名)を集めて連携強化を図る 県内37LC献血の推進拡大、会員も献血知識向上や更なる献血の重要性の理解を図るため、セミナー(110名参加)の開催及び九州センター(40名参加)の視察等を実施し、LC協力献血での献血者を増やしていただく。
女性の比重不適者17%以下にする (H22=17.7%)	低ヘモグロビン者健康相談	継続	低ヘモグロビン等により献血ができなかった協力者	1月～3月	週1回	栄養士による健康相談 低ヘモグロビン等により献血ができなかった方を中心に健康をサポートし、より多くの方に献血へ協力いただけるよう栄養士等による栄養相談を実施する。
採血バス1車当たり400mL献血者50名確保 (平成22年度計画47.7人)	献血者安定確保キャンペーン	継続	移動採血バス献血者	通年	年5回	協力事業所の見直しや処遇品の見直し 年間5回(各1ヶ月)献血者安定確保キャンペーン(処遇品のプラスワン)を実施する。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
20代の献血率を25%にする	献血開催	継続	高校・大学生・専門学校生	4月～3月	5回増	各高校・大学・専門学校	献血に関するセミナーも含め、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。(目標:学内献血対前年比200名増)
	学生献血推進団体強化	継続	大学生・専門学校生	6月		血液センター	学生献血推進団体の拡充を図り、学内献血の協力者を増やすために、各学校の献血担当窓口を通し参加者を募りセミナーを開き、メンバーの増員を行う(目標参加数50名)
	自分への手紙キャンペーン	新規	16歳～18歳の献血者	通年	12	献血ルーム	16歳～18歳の献血者に将来の自分への想いを書いていただき、献血ルームで保管し、誕生日の月に送り返す。(40人/月)
	初めての献血キャンペーン	新規	学生(高校、専門学校、大学)	1月～2月の間		献血ルーム	学生(高校、専門学校、大学)を対象に400mL、成分献血を始めて協力いただいた方に抽選で記念品をプレゼントする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
60歳以上の400mL献血者を5%増加させる	400mL献血者確保	継続	60歳以上献血者	通年		各献血会場	60歳を過ぎて数年間献血協力ができない方への献血依頼はがき送付。特に60歳～64歳までの方の協力を強化し、65歳以降の献血の協力継続を目指す。(目標送付対象人数延べ1,000名)
55歳以上の血小板献血者を350人確保する	高齢年齢血小板献血者の確保	新規	55歳以上の献血者	通年		献血ルーム	血小板献血の年齢制限が延長になることから、当該年齢の血漿献血協力者(約700人)に封書で血小板確保の必要性と年齢制限の撤廃の説明をし、その50%切替をお願いをする。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規献血協力企業・団体の確保(70社)	町、総ぐるみ献血参加運動	継続	市町村献血会場周辺企業及び団体	4月～3月		市町村役場での「町、総ぐるみ献血参加運動」会場	行政や献血協力団体と協力し、市町村役場での協力団体の掘り起こしを行い、裾野の広い協力組織網の構築をはかる。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
応諾者3000人	メール発信	継続	複数回登録会員	通年	50	メールによる献血依頼	献血ルームのキャンペーン情報など献血者のメリットとなる情報を2回/月送信する。また、緊急の献血依頼要請のメールを随時に、献血と種別、型別に送信する。
応諾者1000人	はがき	継続	既献血者(複数回会員を含む)	通年	35	はがきによる献血依頼	3か月以上献血していない献血者を対象に、葉書での献血要請をおこなう。(300枚×3回/月程度 予定応諾率10%)
新規会員500人	新規会員確保と複数回献血	継続	複数回登録会員及び新規登録者	通年	363	献血ちゃんタオルによる新規登録と複数回献血	献血ルームにおける新規登録会員を募集(献血ちゃんタオルを進呈)する。また、既登録者にも案内し、複数回献血者(リピーター)を確保する。
	〃	継続	〃	通年	20回	フットエステによる新規登録会員募集と複数回献血	2月の平日に献血ルームの一角で15~20人/日程度実施し、新規登録者を確保する。また、既登録者にも案内し、複数回献血者(リピーター)を確保する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
「町、総ぐるみ献血参加運動」の実施(16回800名の確保)		継続	各市町村の住民、企業、団体等	4月～3月	16	各市町村役場での献血実施	行政や献血協力団体と協力し、市町村役場での協力団体の掘り起こしを行い、裾野の広い協力組織網の構築をはかる。
施設内有料託児施設の利用者の父母の献血協力(年間60人)	託児整備	継続	育児中の父母	通年			8階にある託児施設の「一時預かり制度」を活用し、利用料金を血液センターで負担することにより、育児中の父母に献血協力願う。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
献血講座実施者数 1500名	献血講座	継続	10代20代対象	4月～3月	15	血液センター及び各学校等	内容(詳細に記載すること) 高校・大学・専門学校等若年層を対象に献血計画のお願いの際、献血への理解を深めてもらう為、献血講座のお願いも併せてする。小学校については、PTA献血の関係で実施しています。小学校～専門学校15校
短大・大学・専門学校献血者2000名	学生献血推進キャンペーン	継続	10代20代対象	4月～3月		各大学他	学生献血推進協議会のキャンペーンにより処遇品等企画し若年層の献血増につなげる。(県内献血実施校31校)

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
親子参加数250名	楽しく学ぼうキッズ献血	継続	小学生と保護者	8月	6	血液センター	小学生高学年と保護者を対象に献血の重要性と命の大切さを学んでもらう。募集方法は県及び市の教育委員会経由でイベント募集チラシを配布する。
18歳～39歳献血参加者1000名	市町村との協働による若年層対策事業	継続	10代～30代対象	4月～3月	20	県内各市町村	市町村の若年層の健康増進を図る為、国保担当者と献血との協働ということで30代までをターゲットに特定健診も一緒にイベントに併せて献血を実施する。若年層の初回者を増やす。
中学生60名	職場体験学習の受け入れ	継続	中学生	4月～3月	15	血液センター・献血ルーム	献血の重要性や命について学び、献血の呼び掛けを行い献血協力をしてもらえたというボランティアの充実感を体験させ、将来への献血導入を図る。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所	
15団体	新規献血協力企業、団体確保対策	継続	担当者	年度内全期間		県下全域	これまで献血協力実績の無い企業、団体の担当者(可能な限り代表者)と面会し、献血の必要性を強く訴え協力が得られるようお願いする。
52団体	献血協賛企業確保対策	継続	献血協力団体の担当者	年度内全期間		県下全域	献血協力事業所の担当者に対し、献血サポーター制度について説明し継続的な献血協力を依頼する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
メール・ハガキによる献血要請(月に2回以上) ※以下全て、魅力ある複数回献血クラブにするための方策 (数値目標:現在5100名を2000名にする)	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員	毎月	月に2回程度	メール・ハガキ	メールは月に2回程度・ハガキは年に2回程度としているが、血液不足の献血依頼はメール・ハガキともに年2回づつとしている。(通常は新作本・DVD案内、抽選会、ハンドマッサージの案内等、献血者の利益となる内容のみ)
抽選会(年間10回程度)	複数回献血協力者確保事業	新規・継続	複数回献血クラブ会員が主であるが、それ以外の方も	血液不足時	不定期	メール・ハガキ	供給に見合った採血という観点から、血液不足時に実施。伝達手段は、メール・ハガキ。※一例:クリスマス抽選会、抽選参加対象者は受付者全員とし、景品は、ケトル(千円程度1本)、マフラー(五百円程度5本)、電波時計(五百円程度5本)、空くじ(百円程度、カップ麺)とし、2日間実施。
ハンド・マッサージの実施(年間4～5回)	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員が主であるが、それ以外の方も	奇数月	二カ月に一回程度	メール・掲示板	二カ月～三カ月に一回程度の実施。伝達手段は、メール、掲示板であるため、複数回献血者クラブの方が主となるが、時間的な余裕があれば、会員以外の方も。
献血予約制度の強化(月500名以上)	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血者	毎日	毎日	机上の用紙・掲示板	次の献血者に献血の予約をお願いしている。
複数回献血クラブ会員優先事業	複数回献血協力者確保事業	新規・継続	複数回献血クラブ会員・一般献血者・その他	不定期	年三～四回	メール・広報紙	複数回献血クラブ会員へ優先的に案内し、不足分をその他の方で補う。ヨーガ・アロマ・リフレ等を実施する。
栄養講話+AED講習会(年1回)	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血者クラブ会員	2月頃	年に一回	メール・掲示板	年に一回、複数回献血クラブの会員の方を対象に実施。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	内容(詳細に記載すること)
応諾率27%以上	はがきによる400mL献血依頼	継続	400mL献血経験者	年度内全期間	全献血会場	献血依頼はがきの郵送	献血実施会場において過去3年以内に400mL献血履歴のある方を対象にデータを抽出し献血協力を呼びかける。

